

目 次

| | |
|-------------------------|----|
| はじめに | 2 |
| I 昭和62年度 管理運営概要 | |
| 1. 組 織 | 3 |
| 2. 予 算 | 4 |
| 3. 事業計画 | 5 |
| II 昭和61年度のあゆみ | |
| 1. あゆみと日誌抄 | 6 |
| 開館10周年記念事業 | 9 |
| 2. 入館状況 | 11 |
| 3. 常設展 刀剣コーナー | 12 |
| スタディ・コーナー | |
| 人文展示室1 | 13 |
| 4. 特別展 | |
| (1) 徳山の四季とくらし | 14 |
| (2) 奥飛騨の自然—笠ヶ岳連峰— | 16 |
| (3) ふるさとの祭り | 18 |
| 5. 資料紹介展 | |
| (1) 山の道具—焼畑— | 20 |
| (2) 岐阜県のシダ植物 | 21 |
| 6. 調査研究・資料収集活動 | |
| (1) 人文部門 | 22 |
| (2) 自然部門 | 24 |
| 7. 教育普及活動 | 26 |
| 8. 図書資料寄贈者芳名一覧 | 29 |

は　じ　め　に

岐阜県博物館は、昭和51年5月の開館以来、本年度で12年目を迎えるにいたりました。この間生涯教育の一翼を担う社会教育機関として、活動を続けてまいりました。資料収集・整理保存・調査研究・教育普及等々の事業に対して寄せられた県民の皆さま、関係の方々のご理解・ご協力を厚くお礼申し上げます。

昭和61年度には、開館10周年記念事業・行事、春・夏・秋の特別展、冬の資料紹介展、50余回の催し物を開催し、「ふるさと岐阜」のさまざまな姿を、過去・現在・未来にわたって紹介してまいりました。今年度も、さらに充実した活動をくりひろげ、県民の皆さまのご期待にそえるよう努力していきたいと考えております。

ここに昭和61年度の活動記録をまとめた岐阜県博物館報第10号をお届けいたします。これまでに寄せられました皆さまのご理解とご支援に心からお礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

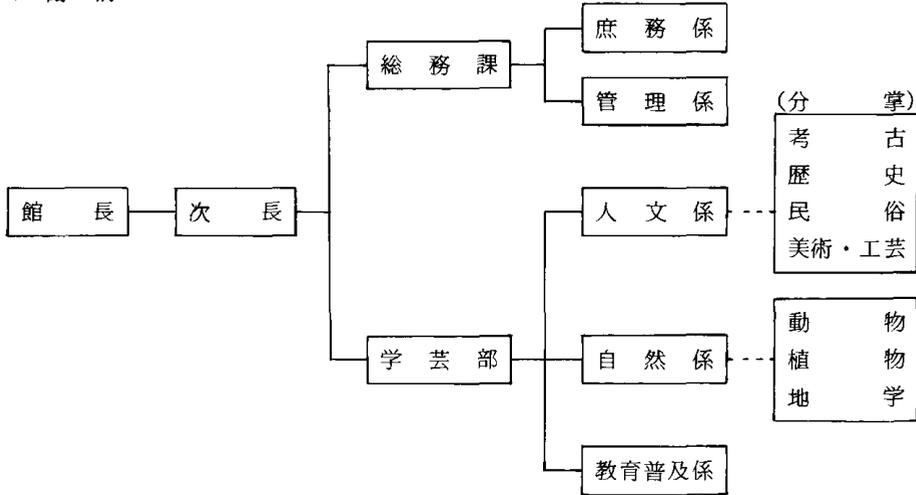
昭和62年4月1日

岐阜県博物館長 森崎利光

I 昭和62年度 管理運営概要

1. 組織

(1) 機構



(2) 職員

昭和62年4月1日現在

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|-------------|-------|---------------|-------|
| 館長 | 森崎利光 | ○学芸部 | |
| 次長 | 西部廉 | 学芸部長 | 鳥居甚吾 |
| ○総務課 | | 主任学芸主事(兼)人文係長 | 大前匡昭 |
| 課長 | 海老澤吉郎 | 学芸主事 | 名和正浩 |
| 庶務係長 | 尾野元啓 | 〃 | 尾関章 |
| 主任査査 | 川端正 | 教諭(研修) | 川瀬善忠 |
| 主任技師 | 山口弘子 | 学芸主事 | 小川和英 |
| 主任主査(兼)管理係長 | 林作男 | 主任学芸主事(兼)自然係長 | 曾我敏男 |
| 主任主事 | 吉原敏彦 | 学芸主事(学芸員) | 國光正宏 |
| 業務囑託員 | 伊藤武嘉 | 学芸主事 | 小森廣光 |
| 〃 | 青山貴子 | 学芸主事(学芸員) | 安藤志郎 |
| 〃 | 古田佳子 | 学芸囑託員 | 長谷川道明 |
| 〃 | 織部清美 | 教育普及係長 | 馬淵隆 |
| 〃 | 山口誉里子 | 教育主事 | 今井雅巳 |
| 〃 | 石井敬子 | 学芸囑託員 | 大沢淳一 |
| 〃 | 佐藤育栄 | 〃 | 青木修 |

(3) 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、又は意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例（昭和51年）第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…副会長

昭和62年4月1日現在

| 氏名 | 住所 | 現職 |
|---------|----------------------|-----------------|
| ◎林 金 雄 | 各務原市那加雲雀町37-2 | 岐阜大学名誉教授 |
| ○土 屋 齊 | 大垣市荒尾町1077 | ㈱大垣共立銀行取締役会長 |
| 坂 倉 又 吉 | 羽島市竹鼻町2733 | 千代菊㈱取締役社長 |
| 溝 脇 昭 人 | 岐阜市鷺山186-1 | 岐阜日々新聞社論説委員 |
| 野 村 忠 夫 | 稲沢市下津町東国府34 | 岐阜大学教育学部教授 |
| 富 成 侑 彦 | 岐阜市西野町5-45 | 前岐阜県高等学校長協会会長 |
| 牧 野 潔 | 岐阜市梶川町7 | 前岐阜県中学校長会会長 |
| 近 藤 良 夫 | 岐阜市加納天神町1-18 | 前岐阜県小学校長会会長 |
| 片 桐 孝 | 岐阜市五坪町1450コーポ田神E-107 | 岐阜県私立中学高等学校協会会長 |
| 二 俣 潔 | 岐阜市鷺山2563-40 | 岐阜県公民館連合会会長 |
| 篠 田 薫 | 岐阜市栗野西1-10 | かぐや第三幼稚園副園長 |

2. 予 算

当初予算額（単位 千円）

| 区分 | 区 分 | | 昭和59年度 | 昭和60年度 | 昭和61年度 | 昭和62年度 |
|----|----------------------------|----------------------|---------|---------|---------|---------|
| | 年 度 | | | | | |
| 歳入 | 博物館使用料 | | 9,140 | 9,664 | 9,530 | 9,166 |
| | 諸 収 入 | | 308 | 319 | 300 | 313 |
| | 合 計 | | 9,448 | 9,983 | 9,830 | 9,479 |
| 歳出 | 博管理 物運 管 館費 | 運 営 費 | 25,026 | 26,508 | 30,453 | 31,869 |
| | | 施 設 管 理 費 | 86,193 | 81,761 | 83,609 | 79,295 |
| | | 博物館協議会費 | 284 | 284 | 308 | 308 |
| | | 計 | 111,503 | 108,553 | 114,370 | 111,472 |
| | 博 物 館 事 業 費 | 常 設 展 示 費 | 15,079 | 23,279 | 23,279 | 22,279 |
| | | 徳山村文化遺産 保 存 事 業 費 | 0 | 0 | 14,100 | 18,078 |
| | | 特 別 展 示 費 | 7,000 | 7,000 | 10,000 | 7,200 |
| | | 資 料 収 集 管 理 費 | 1,300 | 1,300 | 1,940 | 1,940 |
| | | 教 育 普 及 活 動 費 | 2,300 | 2,400 | 2,400 | 2,400 |
| | | 調 査 研 究 費 | 600 | 600 | 600 | 600 |
| | 計 | | 26,279 | 34,579 | 52,319 | 52,497 |
| | 合 計 | | 137,782 | 143,132 | 166,689 | 163,969 |

3. 事業計画

展示活動

| 事業名 | 期 間 | 主 な 展 示 内 容 |
|------------------|---------------------------|--|
| 常 設 展 | | 1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは年4回展示替え。 |
| 〈特別展〉濃飛の弥生時代 | 4/22～6/7 | 県内出土遺物を中心に、弥生人の生活文化を総合的に展示紹介する。 |
| “ 外国から侵入した生きものたち | 7/15～9/15 | 県内で分布を広げている帰化生物を紹介する。 |
| “ 飛騨の匠 | 10/7～11/23 | 建築、一位細工、春慶塗、高山祭屋台彫刻の数々を紹介する。 |
| 〈資料紹介展〉はかり | 12/15～ ⁶³ 1/31 | 社会生活に必要なはかりやその精度を測る道具などを展示する。 |
| “ 身近な資源-石灰岩- | 2/17～4/10 | 石灰岩のでき方、性質、含まれる化石、くらしとの結びつき等を紹介。 |
| 移 動 展 | 7/29～8/9 | 笠原町中央公民館 県内にみられる植物や動物を押し葉 |
| | 8/12～8/23 | 瑞浪市総合文化センター 標本や複製標本で紹介する。 |

教育普及活動

| 事業名 | 期 日 | 対 象 | 定員 | 内 容 |
|---------------------|---|---------|---------------------------------------|--|
| 特別展講演会 | 5/24 8/2 10/18 | 一 般 | | 弥生から古墳へ 南山大学教授・伊藤秋男氏 身近な帰化昆虫 岐阜大学教授・武田 孝氏 飛騨の匠と高山祭屋台彫刻 飛騨民俗村名誉館長・長倉三朗氏 |
| 講演会 | 10/4 | “ | | 日本列島にフウのいたところ 野尻湖友の会運営委員・酒向光隆氏 |
| ① | 4/12 | 一 般 | | 三原山の噴火を考える |
| ② | 4/26 | “ | | 郷土の先土器時代 日本考古学協会員・吉田英敏氏 |
| ③ | 5/10 | “ | | 植物に親しむための入門講座① 庭や畑の雑草 |
| ④ | 5/17 | “ | | 縄文から弥生へ |
| ⑤ | 6/14 | “ | | ムシの世界 |
| ⑥ | 6/28 | “ | | 植物に親しむための入門講座② 水辺の植物 |
| ⑦ | 7/12 | “ | | 岩石とそのつくり(岩石の顕微鏡観察) |
| ⑧ | 7/26 | “ | | ふるさとの古代① 古代の交通 |
| ⑨ | 8/9 | “ | | 帰化生物シリーズ① 植物 |
| ⑩ | 8/23 | “ | | “ ② 昆虫 |
| ⑪ | 9/13 | “ | | “ ③ 動物 |
| ⑫ | 9/27 | “ | | 植物に親しむための入門講座③ 変わりゆく植物社会 |
| ⑬ | 10/11 | “ | | 薬草の効用 内藤記念くすり博物館長・青木允夫氏 |
| ⑭ | 10/25 | “ | | 徳山の歴史と文化 郷土史研究者・大牧富士夫氏 |
| ⑮ | 11/8 | “ | | 飛騨の匠の歩んだ道 高山市文化財審議会委員・八野忠次郎氏 |
| ⑯ | 11/22 | “ | | トンボの生活 |
| ⑰ | 12/13 | “ | | 鉱物と私たちの生活 |
| ⑱ | 1/10 | “ | | はかりの歴史 |
| ⑲ | 1/24 | “ | | ふるさとの古代② 古代の美濃とムゲツ氏 |
| ⑳ | 2/14 | “ | | 野鳥を友に |
| ㉑ | 2/28 | “ | | 石灰岩と私たちのくらし |
| ㉒ | 3/13 | “ | | 濃飛のやきもの |
| ㉓ | 3/27 | “ | | 明治時代における岐阜県の発電 産業考古学会員・高橋伊佐夫氏 |
| 自然観察会 | 4/29 5/31 7/25・26 9/20 11/1 | 親子および一般 | 30 “ 50 30 “ | 百年公園の春の植物 津保川の水生昆虫 板取川上流の自然 秋に鳴く虫 百年公園の秋の植物 |
| 親子教室 | 5/5 6/7 7/19 8/16 11/15 11/29 12/6 12/20 | 親 と 子 | 40 “ “ “ “ “ “ “ | 火おこし器をつくろう 弥生土器をつくろう 拓本をとろう 竹細工 竹細工師・石原文雄氏 木彫り 木彫り細工師・山田良司氏 麻づくり 竹細工師・石原文雄氏 版画あそび しめなわづくり わら細工師・大野仁久氏 |
| 民俗芸能実演 | 5/10 10/4 | 一 般 | - | ふるさとの芸能と太鼓 “ |
| ふるさと探訪 | 9/23 11/3 | 親子および一般 | 40 “ | 瑞浪・善師野の自然を訪ねて 中山道を歩く(東濃路) |
| スタディ・コーナー (自然分野) | 2か月ごとに展示替え 入館者対象 | | | 古生代の化石(3・4月)ふるさとのチョウ(5・6月)庭や畑の雑草(7・8月)ふるさとの鉱物(9・10月)ふるさとのトンボ(11・12月)紅葉する植物(1・2月)石や土で作った道具(3・4月) |
| ふるさと写真展 | 9/1-11/1 | 入 館 者 | | 中山道の今昔(一般公募作品展) |
| 日曜映画会 | 4/22-6/7 7/15-9/15 10/7-11/23 | 入 館 者 | | 「弥生時代の文化」(VTR) 「侵入する生物たち」(スライド) 「飛騨の祭と匠」(VTR) |

Ⅱ 昭和61年度のあゆみ

1. あゆみと日誌抄

昭和61年5月5日、当博物館は開館10周年を迎えた。その間の入館者は1,035,382人であり、本年度末には1,094,746人に達した。なお、本年度の入館者は73,356人（小中高大生50%、団体36%）であり、このうち特別展開催期間中に入館者は51,262人（総入館者の70%）であった。

当博物館は、運営の基本方針〔1、資料の充実整備、2、展示構成の充実、3、特別展の質的向上、4、調査研究の推進、5、教育普及活動の拡充〕に沿って事業を進めるとともに、特に本年度は、開館10周年記念事業（記念展「ふるさとの祭り」、シンボルマークの制定、記念式典等）を行い、県民へのPRを、また徳山村民家の移築復元事業や展示室の整備を実施して魅力ある博物館づくりにつとめてきた。

展示改装は、人文展示室1の見直しを行い、県内の主要遺跡分布図及び関ヶ原合戦模型を新設して、映像機器による動的表示を具備した展示に機能を一新した。特に関ヶ原合戦模型は、当館独自のモデルで、関ヶ原附近の現代の地形模型に合戦陣形図を示して、時間とともに光の点滅により合戦の推移が一目でわかる設備である。立体的で動きのあるこうした展示は入館者に好評である。

資料として、新たに民家の模型（白川村の代表的な合掌づくり民家である遠山家の1/10のもの一國指定重文一）を作成し、2階のロビーに展示をした。また、県内で出土した5口の銅鐸の1つである十六銅鐸の寄贈を受ける等一層充実することができた。本年度末の資料は、人文系で7,489点、自然系で32,642点、図書11,365点であり総数51,496点である。

特別展は、春に「徳山の四季とくらし」を開催した。徳山ダムの建設により湖底に沈もうとしている徳山村の自然と人々のくらしを実物資料や写真で紹介をした。地元を増山たづ子氏の「わたしの徳山」と題する講演会も開催した。

夏には「奥飛騨の自然」を開催した。これは麓から山頂まで全山岐阜県内にそびえる笠ヶ岳連峰を中心舞台としたもので、そのおいたち、動物、植物の生態と山と人とのかかわり等を総合的に展示紹介をした。講演会は山小屋の経営者でもあり写真家でもある小池潜氏の「奥飛騨の山々を語る」であった。秋には、開館10周年記念展「ふるさとの祭り」を華やかに開催した。開幕式を開館10周年記念式典と併せて行った。古い形を多く残している県内各地の祭りを実物資料や写真で展示し、人と祭りとのかかわりを紹介した。きらびやかな神輿や色とりどりの各地の祭りの資料によって楽しく素晴らしい記念展が開催できた。期間中には岐阜大学の伊東久之氏による講演会「岐阜県の祭り」が行われ、博物館前の広場では県内の民俗芸能「金蔵獅子」「真桑文楽」「杵振踊」の実演を行った。

資料紹介展は、昔の山地の生業の一つであった焼畑耕作のようすを農具、作物や山の信仰を含めて紹介した「山の道具―焼畑―」と、昔から人の生活とかかわり深い植物シダを、生育環境別に、また食べられるシダ等をわかり易く解説した「岐阜県のシダ植物」を開催した。

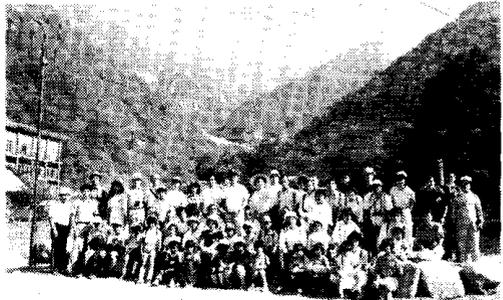
調査研究は、岐阜県考古学の先達、二木長蟪収集品の調査と、笠ヶ岳の自然調査を昨年にかけて実施した。62年3月には、こうした事業に伴うものや、その他の研究、成果をまとめた「岐阜県博物館調査研究報告」第8号を発行した。

教育普及活動としては、移動展「ふるさとの植物と動物たち」を古川町と下呂町で開催した。そのほか、北アルプス笠ヶ岳山麓の自然観察会や、苗木地方の植物や鉱物探訪、また美濃市大矢田神社のヒンココ祭りを訪れた。館内では、博物館教室や、親子で切り絵、版画、また凧などをつくる楽しい親子教室を開催した。

こうした各種の催しものにも、参加する人々が増え、次第に事業が定着するように内容の充実を図っていく所存である。

日誌抄

- 人事異動
 退職 学芸嘱託員 中島 鉦次
 転出 次 長 山田 展明
 主任主査(兼)庶務係長 中村 惇
 学芸主事 小野木三郎
 学芸主事 片野 雅夫
 学芸主事 徳松 正広
 主 事 後藤 幸晴
 転入 次 長 野々田幸雄
 庶務係長 尾野 元啓
 学芸主事 小森 広光
 学芸主事 名和 正浩
 学芸主事 尾関 章
 主 事 伊藤 武嘉
 新任 学芸嘱託員 大沢 淳一
 学芸嘱託員 青木 修
 業務嘱託員 山口蒼里子
4. 1 「博物館だより」第29号発行
 8 岐阜県博物館シンボルマーク募集
 15 鹿児島県立黎明館館長来館
 20 自然観察会「百年公園の早春の花」
 22 福井県立博物館職員来館
 23 特別展「徳山の四季とくらし」開幕
 (6月8日まで)
 ♪ ふるさと写真展「徳山の四季とくらし」
 (6月8日まで)
 27 自然観察会「春の昆虫」
 ♪ 岐阜県博物館友の会総会
 29 自然観察会「津保川の石ころしらべ」
5. 3 特別展講演会「わたしの徳山」
 5 博物館教室「自由民権運動家・小池勇」
 14 岐阜県博物館協会総会
 18 自然観察会「百年公園の新緑とつつじ」
 ♪ 日本美術刀剣保存協会刀剣博物館職員
 来館
 20 「走る県政バス」来館
 25 博物館教室「徳山村の民具」
 26 全館害虫駆除消毒
 30 四館連絡会議
6. 1 博物館教室「植物の世界」
 8 ♪ 「弥生時代のくらし」

6. 10 東海地区博物館連絡協議会総会
 15 自然観察会「津保川の水生昆虫」
 18 東海北陸栄典主管課長会議一行来館
 20 福井県立若狭歴史民俗資料館職員来館
 22 博物館教室「近代史学の確立者・津田
 左右吉」
 29 自然観察会「百年公園のトンボ」
 30 業務嘱託員田畑清美退職
7. 1 業務嘱託員石井敬子新任
 ♪ 岐阜県博物館報第9号発行
 ♪ 「博物館だより」第30号発行
 5 岐伯青年親善交流研修生一行来館
 6 親子教室「切り絵あそび」
 13 ♪ 「拓本をとろう」
 15 鹿児島県立黎明館職員来館
 16 長野県茅野市社会教育課職員来館
 20 博物館教室「植物の分類」
 23 特別展「奥飛騨の自然」開幕
 (9月15日まで)
 24 小中学生をもつ親の科学教室(夏休み
 の研究についてのアドバイス)
 ♪ 文化庁文化財保護部記念物課職員来館
 25 岐阜県哺乳動物調査研究会一行来館
 26.27 自然観察会「北アルプス笠ヶ岳山麓の
 自然」
- 
- 29 「走る県政バス」来館
 31 岐阜県博物館協議会
8. 1 「走る県政バス」来館
 2 博物館教室「笠ヶ岳のおいたち」
 3 ♪ 「高山にすむチョウ」
 9 ♪ 「笠ヶ岳の植生」
 10 特別展講演会「奥飛騨の山々を語る」
 16 博物館教室「笠ヶ岳の動物」

- 8.17 親子教室「火おこし器をつくろう」
 19 半田市小中学校理科研究部会一行来館
 20 国立教育研究所科学教育研究センター
 長来館
 ♪ 鹿児島県立黎明館調査資料課長来館
 21 文部省初等中等教育局中学校課職員来
 館
 23 博物館教室「笠ヶ岳の昆虫」
 24 親子教室「竹細工」
 28 東海地区信用金庫協会一行来館
 31 博物館教室「岐阜県の植物社会」
9. 2 岐阜県博物館シンボルマーク発表
 10 北海道開拓記念館職員来館
 11 鹿児島県立黎明館副館長来館
 14 博物館教室「古生代の化石」
 15 自然観察会「津保川の水辺植物」
 18 鳥取県立博物館職員来館
 21 博物館教室「治水と輪中」
 23 ♪ 「ふるさとの大地をつくる
 岩石」
 28 博物館教室「昆虫観察のおもしろさ」
10. 1 「博物館だより」第31号発行
 5 ふるさと探訪「ふるさとの自然を訪ね
 て（苗木地方）」
 8 博物館開館10周年記念式典
 ♪ 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」
 （11月24日まで）
 ♪ ふるさと写真展「ふるさとの祭り」
 （11月24日まで）
 10 博物館教室「植物観察のおもしろさ」
 12 民俗芸能実演「金蔵獅子」
- 10.26 移動展「ふるさとの植物と動物たち」
 （古川町立図書館11月3日まで）
 27 全館害虫駆除消毒
 28 全国職業訓練校東海支部校長会一行来
 館
 29 静岡県立美術館総務課長来館
 31 全国鈺政担当者会議一行来館
 ♪ 業務嘱託員鈴木智子退職
11. 1 業務嘱託員佐藤育榮新任
 2 自然観察会「秋に鳴く虫」
 ♪ 博物館教室「人間愛の刑法学者・牧野
 英一」
 3 民俗芸能実演「真桑文楽」
 5 移動展「ふるさとの植物と動物たち」
 （下呂町峰一合遺跡考古館11月16日まで）
 9 博物館教室「祭りの見方」
 ♪ 岐阜県博物館友の会臨時総会
 12 福井県立博物館職員来館
 16 博物館教室「美濃市の祭り」
 22 岐阜県教育委員視察
 23 ふるさと探訪「ヒンコ祭りを訪ねて」
 24 民俗芸能実演「杵振踊」
 27 経済企画庁調査局景気統計調査課職員
 来館
 30 自然観察会「百年公園の樹木」
12. 1 博物館環境美化作業実施
 7 親子教室「版画あそび」
 14 ♪ 「しめなわづくり」
 16 資料紹介展「山の道具」（2月1日まで）
 21 親子教室「凧づくり」
 22 全館害虫駆除消毒
- 62年
 1.20 東京都足立区郷土博物館職員来館
 30 全館消防訓練
 2.19 岐阜県博物館協議会
 24 資料紹介展「岐阜県のシダ植物」
 （4月5日まで）
 3. 3 国立西洋美術館職員来館
 16 全館害虫駆除消毒
 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第8号
 発行



16 文化庁文化財保護部記念物課職員来館
 26 記念展講演会「岐阜県の祭り」

開館10周年記念事業

当博物館は、昭和51年5月5日に置県100年を記念して、人文・自然の両分野を備えた総合博物館として開館した。

本年は、開館10周年にあたり、当博物館の一層の充実発展を求めて次の記念事業を実施した。

1 岐阜県博物館シンボルマークの制定



カブよい六角形は、特徴ある博物館の建物をイメージし、また、生き生きとした三つの曲線は、美しい郷土の自然・歴史・文化、そして清らかな流れを表現している。

2 開館10周年記念式典

開館10周年記念式典並びに記念展「ふるさとの祭り」の開幕式を次のとおり挙行了た。

なお、知事感謝状の贈呈及びシンボルマーク入選者の表彰を併せて行った。

（岐阜県博物館）
開館10周年記念式典



期 日 10月8日(水) 午前10時
場 所 博物館玄関ホール
参加者 約180人
式次第 記念式

- 1 開式のことば
- 2 教育長あいさつ
- 3 知事あいさつ
- 4 開館10年の歩み報告並びに記念展紹介

5 感謝状贈呈

6 シンボルマーク入選者表彰

7 来賓祝辞

8 祝電披露

9 閉式のことば

記念展

「ふるさとの祭り」テープカット

感謝状贈呈者

岡崎 友子 (十六銅鐸寄贈)

関ライオンズクラブ (当館案内掲示板寄贈)
シンボルマーク入選者 大塚 道夫 (関市)



3 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」

岐阜県の各地に伝わるさまざまな祭りを通して、人と祭りとのかかわりを実物資料や写真で紹介した。10月8日(水)から11月24日(月)まで開催した。



4 関連事業

徳山ダム建設に伴い、徳山村の長い歴史と文化を後世に伝えるため、徳山村戸入の民家(宮川家、木造2階建茅葺)を百年公園の百寿の塔東に移転復元する。

本年度は、建物の解体と敷地の造成を実施した。62年度には、建物を復元し完了する。

5 参考資料

開館以来の入館者及び特別展の状況は次のとおりである。

入館者の状況

| 年度 | 入館者数 | 開館日数 | 1日平均 | 5 | 10 | 15 | 20 |
|-----|---------------------|--------------|--------------|--------------------|--------------------|----|-------|
| 5 1 | 181,692 (14,204) | 269 (49) | 675 (290) | 53,851 (5,679) | 97,841 (8,525) | | 7.8% |
| 5 2 | 111,461 (20,103) | 296 (82) | 377 (245) | 53,468 (9,383) | 57,993 (10,720) | | 18.0% |
| 5 3 | 103,677 (29,195) | 293 (91) | 354 (321) | 55,492 (15,535) | 48,185 (13,660) | | 28.2% |
| 5 4 | 88,969 (48,929) | 297 (91) | 299 (538) | 46,853 (28,231) | 42,116 (20,548) | | 55.0% |
| 5 5 | 105,016 (64,997) | 297 (108) | 353 (602) | 55,031 (35,836) | 49,985 (29,161) | | 61.9% |
| 5 6 | 101,938 (60,829) | 292 (112) | 349 (543) | 51,859 (35,620) | 50,079 (25,209) | | 59.7% |
| 5 7 | 94,014 (53,159) | 300 (101) | 313 (526) | 52,090 (32,264) | 41,924 (20,895) | | 56.5% |
| 5 8 | 75,530 (49,735) | 302 (115) | 250 (432) | 40,408 (29,110) | 35,122 (20,625) | | 65.8% |
| 5 9 | 79,556 (53,768) | 297 (120) | 268 (448) | 44,129 (32,772) | 35,427 (20,996) | | 67.6% |
| 6 0 | 79,537 (56,593) | 301 (132) | 264 (429) | 42,732 (33,745) | 36,805 (22,848) | | 71.2% |
| 6 1 | 73,356 (51,262) | 302 (131) | 243 (391) | 36,947 (28,229) | 36,409 (23,033) | | 69.9% |

■ 学生
□ 一般

上段 入館者数
下段 特別展入館者数()内書き

入館者総数1,094,746人

特別展一覧

| | 春 | 夏 | 秋 |
|-----|----------------------|-----------------------|------------------------|
| | 名 | 名 | 名 |
| 5 1 | 郷土巨匠三人展 郷土スポーツ栄光展 | ふるさとの文楽 | 熊谷守一展 |
| 5 2 | 日本伝統工芸秀作展 | 郷土の化石展 | 鉄 斎 |
| 5 3 | 濃飛の甲冑 | 世界のコガネムシ | 能面と装束 |
| 5 4 | 濃飛の先史時代 | 世界の貝 | 濃飛の文人 |
| 5 5 | 宝暦治水と薩摩藩 | 化石の世界 | 養虫山人 |
| 5 6 | 美濃の絵馬 | 御岳山は生きている | ふるさとの美濃古陶 |
| 5 7 | 高賀山の信仰 | ふるさとの植物 | 東洋の貨幣 |
| 5 8 | 岐阜県の考古遺物 | 長 良 川 | 郷土の生んだ先覚者 |
| 5 9 | 濃飛の戦国武将 | ふるさとの昆虫 | 美濃の蘭学 |
| 6 0 | 濃飛の縄文時代 | 鉱物の世界 | 美濃の刀剣 |
| 6 1 | 徳山の四季とくらし | 奥飛騨の自然 (笠ヶ岳連峰を中心に) | 開館10周年記念展 「ふるさとの祭り」 |

2. 入館状況

今年度は、入館者総数73,356人、前年度に比べ約8%の減少であった。

また、開館日数は302日であり、1日平均の入館者は243人であった。

月別の入館状況は下表のとおりであり、春期の4月と5月、秋期の10月と11月の4か月で全体の約63%を占めている。

また、1日の入館者が多い日も上記の4か月に多く、特に10月30日には2,105人を数えた。

なお、4月29日は天皇御在位60年を記念して入館料を無料とした。この日の入館者数は1,948人であった。

団体入館者をみると、282団体26,592人で年間総数の約36%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者総数の約43%を占めている。

さらにこれを県内、県外別にみると、県内が195団体16,923人で全体の約64%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、82団体、9,515人で全体の約36%を占めている。

特別展の入館状況については、通算開催日数は131日、入館者数は51,262人であり、1日平均391人であった。これは入館者総数の約70%を占め、特別展への関心の高さがうかがえる。

(1) 博物館入館者数

| 月別 | 小中生 | 高大生 | 一般 | 計 | 開館日数 | 1日平均 |
|-----|--------|--------|--------|--------|------|------|
| 4月 | 4,124人 | 1,151人 | 4,050人 | 9,325人 | 26日 | 359人 |
| 5月 | 5,007 | 1,098 | 5,140 | 11,245 | 27 | 416 |
| 6月 | 1,002 | 815 | 3,586 | 5,403 | 25 | 216 |
| 7月 | 780 | 177 | 1,727 | 2,684 | 27 | 99 |
| 8月 | 1,856 | 292 | 3,675 | 5,823 | 27 | 216 |
| 9月 | 1,522 | 118 | 3,446 | 5,086 | 24 | 212 |
| 10月 | 9,519 | 2,746 | 4,749 | 17,014 | 27 | 630 |
| 11月 | 3,977 | 157 | 4,175 | 8,309 | 26 | 320 |
| 12月 | 230 | 64 | 679 | 973 | 22 | 44 |
| 1月 | 352 | 41 | 1,055 | 1,448 | 22 | 66 |
| 2月 | 524 | 86 | 1,507 | 2,117 | 23 | 92 |
| 3月 | 1,078 | 231 | 2,620 | 3,929 | 26 | 151 |
| 合計 | 29,971 | 6,976 | 36,409 | 73,356 | 302 | 243 |

(2) 特別展期間中の入館者数

| 特別展名 | 期 間 | 小中生 | 高大生 | 一般 | 計 |
|-----------|---------------------|--------|--------|--------|---------|
| 徳山の四季とくらし | 61. 4.23 ~ 61. 6. 8 | 8,027人 | 2,264人 | 8,687人 | 18,978人 |
| 奥飛騨の自然 | 61. 7.23 ~ 61. 9.15 | 3,208 | 505 | 6,296 | 10,009 |
| ふるさとの祭り | 61.10. 8 ~ 61.11.24 | 11,417 | 2,808 | 8,050 | 22,275 |
| 合 計 | | 22,652 | 5,577 | 23,033 | 51,262 |

3. 常設展

(1) 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。今期は、人文展示室2を10周年記念展会場に充てたため、9月22日から12月8日まで人文展示室2の常設展示はできなかった。したがって、例年4回の展示替えを行っているが、今期は3回とした。昭和61年度の年間展示資料は下記の通りである。

| 第 1 期 | 第 2 期 | 第 3 期 |
|--------------|--------------|---------------|
| 4月22日 ~ 7月6日 | 7月8日 ~ 9月21日 | 12月9日 ~ 4月19日 |
| 刀 無銘 志津 | 刀 金象嵌銘 正宗 | 刀 無銘 志津 |
| 刀 無銘 直江志津 | 刀 無銘 兼光 | 刀 無銘 直江志津 |
| 刀 銘 濃州赤坂住兼元 | 刀 無銘 兼光 | 刀 銘 濃州赤坂住兼元 |
| 短刀 銘 兼住 | 刀 銘 濃州住兼元 | 太刀 銘 兼光 |
| 刀 銘 兼信作 | 刀 銘 氏房入道作 | 脇指 銘 和泉守兼定 |
| 脇指 銘 兼景 | 短刀 銘 兼房 | 短刀 銘 兼景小十郎 |
| 短刀 銘 兼直 | 短刀 銘 兼見 | 短刀 銘 兼直 |
| 脇指 銘 丹波守吉道 | 短刀 銘 兼鶴 | 槍 銘 定廣 |
| 槍 銘 志津三郎兼氏 | | |

(2) スタディ・コーナー

動物・植物・地学の各分野毎に輪番で、学芸活動のさやかな発表の場として、トピック的な問題をとりあげたり、小さなテーマを設定して、学習コーナーとして活用し、紹介する。

「白亜紀の植物化石」……………3～4月

中生代後半に岐阜県北部が湖であった頃の代表的な植物化石を紹介。

「身のまわりの鳥たち」……………5～6月

里山を中心に、私たちのまわりで見られる鳥を収蔵資料で紹介。

「川原の植物」……………7～8月

長良川を具体的な事例として、川原という特殊な生育環境にみられる植物の種類・形態などを収蔵資料で紹介。

「海でできる石(その2)」……………9～10月

県下の古生代～新生代の海成のたい積岩の中からチャート、キリョクギョウカイ岩・サ岩をとりあげ紹介。

「帰化動物(アライグマ)」……………11～12月

アライグマの分布・生態を中心に、最近勢

力を拡げている帰化動物を紹介。

「帰化植物」……………1～2月

近年、都市部を中心に勢力を拡げている帰化植物の種類・生態を紹介すると共に、身近なところでできる科学の自由研究の具体例を提示する。

「古生代の化石」……………3～4月

化石産地として、日本でも有名な上宝村福地や、大垣市赤坂町金生山を中心に、古生代の化石を紹介。



(3) 人文展示室1の整備充実

開館以来11年目を迎え、時代に即応した展示とすため、昭和61年度は「人文展示室1」の一部を整備し充実を図った。

I、「岐阜県原始古代主要遺跡分布」

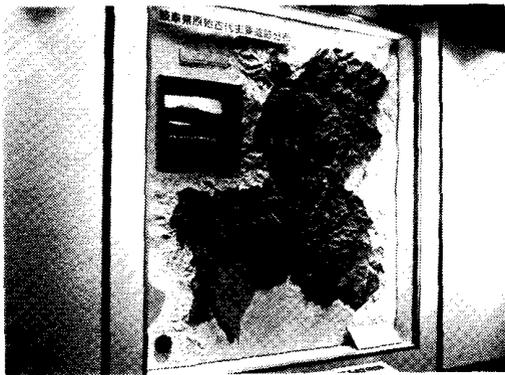
人文展示室1の第1コーナー「郷土のあけぼの」には、縄文人及び弥生人の生活想像絵図が開館以来展示されていたが、今回これを撤去して、ここに先土器時代から古墳時代（古代をも一部含む）にかけての、県下の主要遺跡の分布状況・遺跡と地勢・地形との関係、及びその現状などを示す映像機器を設置した。製作にあたっての主な留意点は次のとおりである。

1)、岐阜県地図は $\frac{1}{10万}$ （約 $1.7m \times 1.5m$ ）の地勢立体図とし、表示は必要最小限に留める。

2)、県下の該当遺跡、数千のうち210個所を選び、LED（発光ダイオード）の点滅により、先土器・縄文・弥生・古墳各時代ごとに一斉表示する。さらに代表的遺跡数25については、個々の遺跡の名称を表記し、該当ボタンと連動しているモニターテレビによって、細かな地形との関係や遺跡の現状を知る。

3)、古墳時代の遺跡表示は、発生順の3段階に分け、古墳文化が西から東漸したこと、及び中山道沿いに分布していることを知る。

4)、モニターテレビによる説明は、周囲の状況を考えてテロップ方式とする。



II、「関ヶ原合戦」

第4コーナー「武家社会」には、関ヶ原合戦を描いたいわゆる彦根屏風のカラーコルトンが展示されていたが、これを映像を伴う動的展示

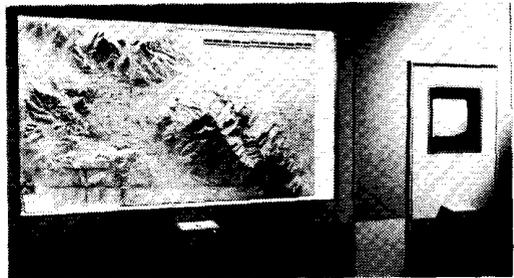
に置きかえた。基本的考えは次のとおりである。

1)、全体を3部から構成し、合戦そのものと、合戦前後の歴史的背景及び史跡の現状紹介を含む総合的なものにする。

2)、第1部は歴史的背景を扱うものとし、秀吉の死（1598年）から夏の陣（1615年）に至るまでの日本全体の動きと、濃飛両国の動きをあわせて説明。第2部は現在に残る史跡15を紹介。両者あわせてビデオテープによって説明する。

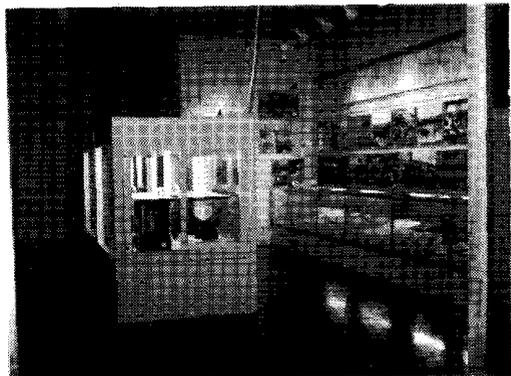
3)、第3部は慶長5年9月の合戦だけに限り、 $\frac{1}{4}$ （ $1.3m \times 2.5m$ ）の立体地図上に合戦の推移を再現する。ナレーションとBGMにあわせたLEDの点滅により、7時間に及ぶ戦の様相を9分間で表す。

4)、LEDの発色は東軍と西軍の2色のみとし、複雑な動きをできるだけ単純化して、わかりやすくする。



III. 展示ケースの増設

第6コーナー「郷土の100年」は、展示資料数と比べてややせまかったので、人文展示室1の全体整備に伴って、展示ケース2個を増設し、テーマを整理するとともに展示資料の増加を図る。



4. 特別展

(1) 徳山の四季と暮らし

4月23日(水)～6月8日(日)

徳山村は、かつて北からの越前文化・西からの近江文化・南からの美濃文化の影響を受けながら、長い歴史を通じて独自の山村文化をはぐくんできた。

その徳山村も、ダム建設にともなり村民離村とともに、間もなく閉じられ、やがては巨大な湖の底に沈む日を迎えようとしている。

今回の特別展では、徳山村の自然と、四季を通じて育てられてきた生活文化を紹介し、その文化的意義を明らかにするとともに「かつて徳山村ありき」として後世に語り継いでいただきたいと願った。

〈展示構成〉

本展は、1「閉された冬」、2「祭りの春」、3「緑滴る夏」、4「実りの秋」の4つのコーナーに分け、四季を通じて育てられてきた生活文化を総合的に把握できるようにした。

徳山村の四季の変化は、平野部とちがって極めて著しい。春、雪どけを待って一挙に開く花。夏、日中の草いきれと夜のさわやかさ。秋、山や谷をうずめつくす紅葉。背たけを越す雪にとざされた冬。何れも訪れる人に鮮明な印象を与える。

「閉された冬」

徳山の冬は長い。白谷の奥にある能郷白山(地元の人にはゴンゲンと呼ぶ)が白く輝くのが11月の初め。その頃、冠山にも初雪をみる。そして里へおりてきた雪は、四カ月の長きにわたって徳山村をすっぽり埋めつくす。

雪に埋れている期間が長いだけに、冬を楽しむため、徳山の人々は正月を多彩なものにする。豆腐づくりや魚鮓づくりの準備に手間と暇をかける。雪に閉じこめられていても、紙漉きや、やがて来る春の農耕に備えてわら仕事に精を出す。このコーナーでは、「雪踏・雪下ろし」・「紙漉き」・「豆腐づくり」・「魚鮓」に分けて実物資料、生産工程を紹介した。

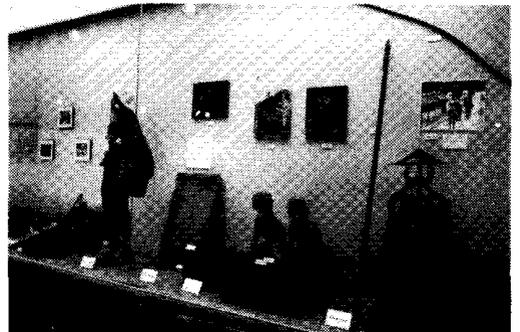


「祭りの春」

1月、徳山村はまだ、きびしい冬に閉されているが暦の上では春。村びとはすでに春の営みにとりかかっている。そして3月、長くきびしかった雪との闘いもようやく終り、雪解け水で水かさを増した川のとどろきや雪の割れ目から顔を出したフキノトウが春の息吹を告げる。村びとも再びめぐってきた春のぬくもりを全身で受けとめながら山へ畑へと駆りたてられる。

徳山の生活は、晩春の山菜採りと、秋の木の突拾いにみられるように、自然の恵みと直接結びついている。3月のフキノトウに始まって、フキ・アザミ・ウド・ワラビ・ゼンマイ・クグミと続く。ゼンマイはゆでたあと乾燥させて保存し、フキ・ワラビ・アザミ・ウドは塩漬けにする。何れも野菜が乏しくなる冬に備える。

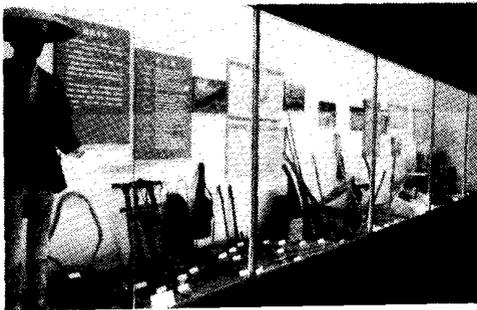
村びとはこぞって自然の恵みに感謝し、その喜びを祭りという形で表現する。そして、村普請により道を直したり、ユイ(手間の貸し借り)により屋根を直したり、祭りの準備に精を出す。このコーナーでは、「元服祝い」・「屋根葺き」・「山菜摘み」・「春の例祭」にかかわる資料を展示し、春の暮らしを紹介した。



「緑滴る夏」

徳山では日中温度は35度を越すことも珍しくないが、夜は15度前後にさがり、さわやかな涼風が川を渡る。日中、村びとは草いきれの中で仕事に精出す。田の草取りから山仕事、かつては段木づくり、焼き畑、または養蚕と目のまわるような忙しさであった。時には出作り小屋へでかけたまま久しく戻らない時もあった。盆が近づくと、外へ出ていた若者も帰省し、村は賑やかさをとり戻す。やがて若者も去り、村が静まるころ、お廻りさんが秋の訪れを運んでくる。

このコーナーでは、「段木」・「栃の木」・「田と畑」・「養蚕」のパートに分け、山仕事の道具、農具、養蚕道具などを展示し、山村徳山の姿を紹介した。



「実りの秋」

8月の末、馬坂峠の坂をお廻りさんの一行がくだってくると村には漸く秋の色がただよび始める。山々に、トチノミ・クルミ・ヤマブドウ・テンボナシ(ケンボナシ)・マイタケなどの天然の実りがあり田畑では取り入れが盛んに行われる。それも束の間、村びとはやがて来る長い冬に備えて野菜を洗い、芋や豆を乾し、薪をつくるなど忙しい日々を送る。かつてはトチノミ拾いと、段木流しがそれに拍車をかけていた。



そして、11月28日、お講の日に道場で読経のあと大根汁をいただくころ、秋も終り長い冬が訪れる。



このコーナーでは、「栃餅・栃のこざわし」・「お廻り」・「家の中の仕事」・「収穫・調整」・「台所」のパートに分け、食生活にかかわる資料を中心に、機織り、筵編み、てんご編みなど山村における家

の中の仕事をも総合的に展示した。さらに、台所の一部を再現し、徳山村の生活ぶりを紹介した。

〈関連事業〉

1. 講演会 5月3日(祝)
演題 わたしの徳山
講師 増山たづ子氏

徳山村で生まれ育った増山氏の動植物と交流し自然からいろいろ学びながら生きてきた徳山の人々の暮らしぶり。運命共同体として仲良く助け合って生活してきた徳山村への愛着、そして、その村が消失することを惜しむ心。素朴で明るい人柄がそのまま話や話しぶりに表れ楽しい講演であった。

2. 博物館教室 5月25日(日)
演題 徳山村の民具
講師 日本民具学会会員
脇田 雅彦氏

民具資料約40点をもとに、それぞれの民具の用途や特徴、民具の形、名称は地域差が大きいこと(東日本と西日本、山間部と平地部、同一郡内で)などを説明された。徳山村の民具の特徴は、大っぴりではあるが、繊細な美しさをもっていること。これは徳山村のんびりがのびやかに、そして文化性の高い生活をしてきたことの表れであることを語られた。

(2) 奥飛驒の自然

——笠ヶ岳連峰を中心に——

7月23日(水)～9月15日(祝)

笠ヶ岳連峰は、麓から山頂まで全山岐阜県内にあって、その豊かな自然は、岐阜県の象徴的存在といえる。

日本列島の地質構造からみると、飛驒外縁帯という特異な地域にあり、氷河地形が見られるのも、本県ではこの山岳地域だけである。また他の北アルプス諸峰と違った陥没構造を伴っており、白亜紀火山岩層からなる特異な単独の高山地帯である。

生物的にも、日本の温帯を代表するブナ原生林をはじめ、ダケカンバ林もよく発達しているなど、御岳山・乗鞍岳等とも、異質な植生がみられ、動植物の垂直分布にも興味つきない課題を含んでいる。

このように、自然史の面で特異性があり、しかも、播隆上人によって登山道が開かれ、古来飛驒の人々に親しまれてきた笠ヶ岳連峰について、現地調査などで得られた研究成果を含め、そのおいたち、動物、植物、そして山と人とのかかわり等を、総合的に展示紹介し、ふるさとの自然を理解できるよう配慮した。

<展示のねらい>

(1)、笠ヶ岳が古い火山であり、それがどのようにしてつくられたかを明らかにする。

(2)、笠ヶ岳に生きている動植物たちを、環境のちがいに応じて紹介し、山の自然の豊かさと生態のしくみを明らかにする。

(3)、自然の中に生きてきた人々の暮らしと、生物とのかかわりの一端を紹介する。

<展示内容>

◎笠ヶ岳讃歌

全体の導入として、笠ヶ岳の登山道を開かれた播隆上人の遺品と四季折々の笠ヶ岳連峰の景観を写真により紹介

◎笠ヶ岳のおいたち

・笠ヶ岳をつくる土台

笠ヶ岳の基盤をつくる岩石について、その種類や特徴を紹介。(飛驒帯、飛驒外縁帯、

美濃帯中・古生層、手取層群の岩石)

- ・古いカルデラとしての笠ヶ岳
笠ヶ岳がどのような経過をたどってきたのかを紹介。(笠ヶ岳流紋岩、笠ヶ岳のでき方)
- ・山岳としての笠ヶ岳のおいたち
笠ヶ岳が今のような高山になるまでのできごとを紹介。(隆起、差別侵食)
- ・笠ヶ岳にも氷河があった。
笠ヶ岳に残る氷河地形をとおして、氷河時代を浮きぼりにする。(氷河のつめ跡)

◎氷河時代の生き証人たち

- ・ツンドラと日本の高山帯
氷河時代を生きぬいてきた、高山植物の地史的背景をさぐる。(ツンドラの植物、高山植物とは、高山植物の形態)
- ・高山帯の植物社会
特異な環境下にある植物社会を生態的に明らかにする。(ハイマツ林のつくり、お花畑と雪田、高山帯の四季)
- ・高山帯の動物
きびしい環境下を生きぬいてきた動物相を浮きぼりにする。(高山の昆虫、鳥類、小型哺乳動物)

◎森林と生き物たち

- ・笠ヶ岳の植生帯
垂直的な植生変化と、代表的な森林のつくりを明らかにする。
- ・森林の住民
動物たちの暮らしを、植物とのかかわりの中で明らかにし、生態系的な見方を深める。
(昆虫、両生類、は虫類、鳥類、哺乳類、動物の食べ物、生態系)



特別展「奥飛驒の自然」大パネル

◎山の恵

・山の幸

昔から今に伝えられている自然資源活用例を紹介する。(山菜、動物の毛皮、薬としての動物、食べられるキノコ)

〈展示資料の概数〉

| | | |
|--------|-------|------|
| 岩石・化石 | 実物標本 | 50点 |
| 植物 | 腊葉標本 | 200点 |
| 〃 | レプリカ | 12点 |
| 動物 | 鳥類剥製 | 30点 |
| 〃 | 哺乳類剥製 | 20点 |
| 〃 | 昆虫標本 | 150点 |
| 毛皮等加工品 | (実物) | 30点 |
| 地形立体模型 | | 1点 |
| 解説パネル | | 40点 |
| 写真パネル | | 65点 |

〈関連教育普及事業〉

- ・講演会 8月10日(日)
講師 山小屋経営・山岳写真家 小池 潜氏
演題 『奥飛騨の山々を語る』
- ・博物館教室
 - ・高山にすむチョウ、8月3日(日)
講師 昆虫分布研究会会員 西田真也氏
 - ・笠ヶ岳の自然シリーズ:
 - ① おいたち 8月2日(土)
 - ② 植生 8月9日(土)
 - ③ 動物 8月16日(土)
 - ④ 昆虫 8月23日(土)
- ・自然観察会
 - ・北アルプス笠ヶ岳山麓の自然:
 - 期日 7月26日(土)～7月27日(日)
 - 場所 上宝村、笠山荘(宿泊)
 - 参加者 60名
 - 講師 当館学芸員
- ・展示資料出品者及び協力者
団体
中部山岳国立公園平湯管理官事務所
神岡営林署栃尾担当区
上宝村教育委員会
通産省工業技術院地質調査所
日本野鳥の会岐阜県支部

老田野鳥館

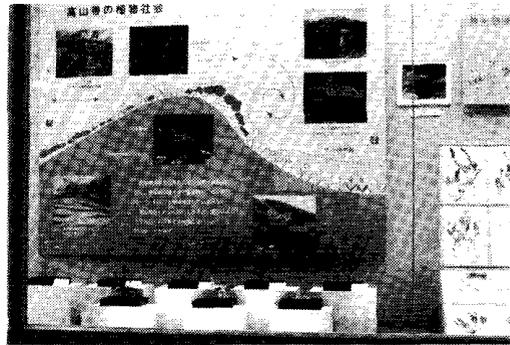
内藤記念くすり博物館

個人 (敬称略・順不同)

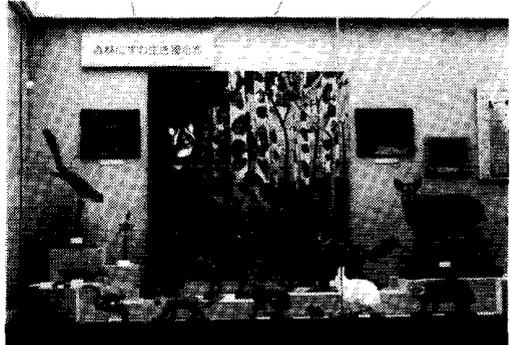
滋野 守(笠ヶ岳山荘)原山 智(地質調査所)
小池 潜(双六小屋)山腰 悟(ひだ自然館)
嶽本清一郎・西田真也・石原哲也・若田俊一
神 憲明・宮野昭彦・笠原芳雄・中島公一
宮尾嶽雄・梶浦敬一・鈴木 互・松本俊信
澤田高平・滝沢春雄・斎藤秀雄・斎藤明子
福井強志・渡辺泰明



展示風景 『笠ヶ岳のおいたち』



展示風景 『氷河時代の生き証人たち』



展示風景 『森林と生き物たち』

(3) 開館10周年記念展

ふるさとの祭り

10月8日(水)～11月24日(振休)

祭りは、私たちの平凡な日常生活を区切り、ムラやマチをあげて祝うハレの日である。人々は豊作や疫病除けなどの願いをこめて、神を人間の世界に迎え、神占いをして神意をおしはかり、色々な方法で神をもてなし、神とともに歌い踊ることによって、神への感謝の気持を表し、また自らも明日への活力をえた。

今日残されている民俗芸能の多くは、こうした祭りの中で発生し、また祭りの中にとりいれられて、日本文化の一つの基調となってきた。また一方、祭りは集団による営みであって、人々の心の統一と、エネルギー発散の場として、かつては共同体社会の精神的な支えにもなっていた。こうして祭りは、日本の文化や社会にとって欠くことのできない土台をつくってきた。

ところが、工業の高度化が急速に進み、産業構造が変化してくると、人と人との結びつきが弱まり、祭りを支えていた共同体を大きく変え、その結果、祭りそのものも変容してきた。

このような時代の流れの中で、人々は失ったふるさとを求め、かつて祭りが果たしていた役割に再び注目し、その意義をもう一度見直すようになってきた。

岐阜県には、全国的にみても比較的古い形態の各種の祭りが多く残されている。この記念展では、これらの祭りのいくつかを紹介しながら、本来の意味での「祭りとは何か」を問い直してみたく、開館10周年を記念して企画し、この展示によって、祭りやそれぞれのふるさとを見直

す契機になることを意図した。

<展示構成>

今回の展示は、岐阜県下で重要無形民俗文化財の指定を受けている祭り（下呂の田の神祭・南宮神社の神事芸能・長滝の延年・能郷の能狂言・真桑人形浄瑠璃・高山祭・古川祭…件数は全国第2位、種類の多さは全国に類がない）7件全部と、県重要無形民俗文化財に指定されている祭り及び県重要有形民俗文化財が出る祭りの中から16件（うち1件は芸能実演のみ）の計23件の祭りを紹介した。

展示構成は、第1「神迎え」・第2「祭りの芸能」・第3「祭りの行列」・第4「山車の出る祭り」の4つのコーナーに分け、岐阜県の祭りを分類的・総合的に把握できるようにした。また、できるかぎり各種の祭りの全国分布を示し、全国的な視野から見れるように配慮した。

第1のコーナーでは、祭りにとって不可欠である神迎えを、「ものいみ」と「みそぎ」・供物（根尾村能郷白山神社の供物器など）・御幣と依代（蛭川村安弘見神社の幣束・神馬など）の3つに分けて紹介した。

第2のコーナーでは、神をもてなし楽しませるために、人々が祭りにこめられた願い（豊作・長寿・悪霊退散など）を言葉や動作で表現していたものが、時代とともに芸能化していった祭りを紹介した。その構成は、競射などの「競技」（根尾村樽見の十一日祭）・広く分布している「獅子舞」（古川町の数河獅子、羽島市の平方勢獅子）・予祝行事である「田遊び」（下呂の田の神祭一花笠・衣装など、富加町伊和神社の田の神祭）、太鼓踊りなどの「風流」（蛭川村の杵振踊、南宮神社の神事芸能一絵巻物・衣装



展示 第1会場



展示 第2会場

模型など、明方村寒水の掛踊、久瀬村東津波の鎌倉踊、谷汲踊)、全国的にも珍しい「延年」(白鳥町長滝の六日祭一当弁竿・当弁冠・狩衣・長滝花など)、古い形態を残す「能・狂言」(根尾村能郷の能・狂言一能面・能装束・狂言本など)、かつては各地にあった「人形芝居」(真正町真桑人形浄瑠璃一「蓮如上人一代記」)に関する人形・小道具など)の7つに分けた。

第3のコーナーは、祭りでよく見かける行列を取り上げた。行列の古い形態をよく残している宮村水無神社の行列を、神輿を始めとして、赤鬼・青鬼・獅子・獅子神楽屋形・猿田彦・輪棒・神代踊・神饌櫃・御神酒樽・荷鉦鼓・錦蓋・紫翳・大薙刀・鬮鶏楽などで再現した。

第4のコーナーは、祭りを担う者とみる者がはっきり分かれた、華やかなマチの祭りである山車が出る祭りを取り上げた。高山祭では、屋台模型を始め、かつて使われていた屋台彫刻・からくり人形・屋台幕・屋根飾・屋台の車輪などを展示した。垂井曳軸祭では、見送り・屋根飾・舞台障子腰襖を展示し、子供歌舞伎を上演している特徴を出した。大垣祭では、江戸時代に華やかに出されていた朝鮮山車関係の資料を中心に展示した。久田見祭では、珍しい糸切りからくりを紹介するために、門外不出であった山車のからくり操具を展示した。関祭では、現在使われているからくり人形を、古川祭では、起し太鼓の実物を、美濃祭では、華やかな花神輿をそれぞれ展示した。

展示場所は、人文展示室2・特別展示室・触察コーナー・1階フロアー・2階フロアーを使用した。人文展示室2では、「神迎え」・「祭りの芸能」・「祭りの行列」(展示室中央にジ

オラマ)を展示した。特別展示室では、「山車が出る祭り」を、触察コーナーでは、岐阜工高のマイコンで動く高山祭屋台模型と公募の「ふるさとの祭り」写真展を展示した。1階フロアーに、美濃祭の花神輿を、2階フロアーには、古川祭の起し太鼓や白鳥町長滝六日祭の花笠を始め、谷汲踊・東津波鎌倉踊・寒水の掛踊のシナイや太鼓・衣装などを展示した。

〈関連事業〉

記念展開催中の関連事業として、講演会・博物館教室・民俗芸能実演・ふるさと探訪・ふるさとの祭り写真展(公募)・日曜映画会・ビデオ放映を行った。

・講演会は、10月26日に岐阜大学助教授伊東久之先生の「岐阜県の祭り」の記念講演を行った。

・博物館教室は、11月9日に民俗芸能学会会員片桐芳一先生の「祭りの見方」及び、11月16日に美濃市文化財を守る会理事長内木茂先生の「美濃市の祭り」の講演を行った。

・民俗芸能実演は、10月12日に国府町の金蔵獅子を催しもの広場で、11月3日に真正町の真桑人形浄瑠璃を講堂に仮設舞台を作り、「日吉丸稚児桜」を上演した。また、11月24日には、蛭川村の杵振踊を、噴水広場から百寿塔までの間で上り下りの踊りをそれぞれ上演した。

・ふるさと探訪は、11月23日に美濃市大矢田神社のヒンココ祭を見学した。

・日曜映画会は、「西濃の祭り」や「杵振踊り」などを、交替で上演した。またビデオは、郷土学習室のビデオコーナーに、「高山祭」や「古川祭」などのソフトを入れ、自由に見ることができるようにした。

展示・事業いずれも好評であった。



展示 第3会場



民俗芸能実演 杵振踊

5. 資料紹介展

(1) 山の道具（焼畑）

12月6日(火)～2月1日(日)

焼畑農耕は、ひと昔前までは、山村に生きる人々の生活の支えとなっていた。ナギ・ヤポ・カノ・アラキなどと、各地でさまざまに呼ばれてきたが、その起源は古く、遠く縄文時代にまでさかのぼるといわれている。しかし、焼畑農耕は昭和30年代以降急速に衰退し、現在ではほとんどみられなくなってしまった。

今回の資料紹介展では、こうした焼畑の歴史を、郡上郡明方村に残されてきた貴重な焼畑用具＝山の道具を中心に展示し、日本文化のかくざれた一端、消えゆく農民の知恵と工夫と心を紹介したいと企画した。

〈展示構成〉

国の重要有形民俗文化財6点を含む160点余の資料を下記のような構成のもとに展示した。

- 焼畑とは
- 1 照葉樹林帯と焼畑
- 2 焼畑関係文書（明方村）
- 3 焼畑の道具（明方村立博物館）
(1)新畑 (2)耕作 (3)収穫
- 4 焼畑儀礼

1. 照葉樹林帯と焼畑のコーナーでは、岐阜大学農学部堀内助教のご好意により、「ヒエ、アワ、キビ、モロコシ等」の多数の実物資料を展示し、山でとれる作物を紹介した。

2. 焼畑関係文書は明方村に残された貴重なもので、江戸時代の山村農民の厳しい生活の跡、血と涙を伺い知ることができるよう努めた。

3. 焼畑の道具では、明方村立博物館の重要有形民俗文化財6点を含む60点余により、農民の知恵と工夫のアトを紹介した。



ナギカエシの祭壇

4. 焼畑儀礼に関しては、実物資料として残されているものは少なく、串原村中山神社のお犬様（狼）信仰を除いては、館職員による自作模造品を展示した。この中で特に日本最大規模の「ナギカエシの祭壇」については石川県小松市小原の祭壇を復元したものだが、館のスタッフが総力をあげて作成し、供物も展示期間中、実際の山の幸を供えた。

来館者すべてに、「ヒエを育ててみませんか」として「ヒエの種」を小さなビニール袋に入れて、1,000袋用意した。この大量のヒエは、石川県立歴史博物館・伊藤常次郎氏からいただいたものである。また、『山の道具・焼畑』自作手刷りの解説リーフレット(B5・16頁)を1,000部作成し、「ヒエ」とあわせ配布した。

焼畑には「手作り」という言葉がよく似合う。そこに生えている自然木を切り取って、多少の加工が加えられることにより、それは道具となる。「自給自足」という、現在ではもう死語となりつつある世界が生きていたのが、焼畑の世界である。太古以来、自然に恵まれ、自然のフトコロでその恵みに感謝と畏怖の念をいただきつつ生活をつづけた人の姿がそこにはあった。そしてそれは、ほんの数十年前までの、我々の姿であったはずである。

華やかさとも、話題性ともあまり縁の無いテーマであり、展示ではあったが、この資料紹介展は、博物館が地域社会に果たすべき役割を考慮し、企画したものであった。

井口寿郎氏、金子真二氏、橘礼吉氏にはことのほかお世話になった。石川県立歴史博物館、明方村立博物館よりの借用資料を除いては、全てが館職員の「自給自足」である。焼畑農民の心に多少なりとも近づき得たかもしれない。



焼畑儀礼

(2) 岐阜県のシダ植物

2月24日(火)～4月5日(日)

ワラビ・ゼンマイ・ツクシ、春の山菜として親しまれているシダ植物である。名前が広く知られているにもかかわらず、ワラビ・ゼンマイ・ツクシの本当の姿を知る人は少ない。

私たちに身近で、親しみのある植物シダは、分類がむつかしく、よく似た葉をしているため一部の愛好家を除いて、興味、関心が持たれていなかった。また、岐阜県内のシダの分布、生育種数の解明も遅れ、県内産シダ植物目録すらないのである。

今回、飛騨を中心に活動されている二村、長瀬両氏、西濃の山本氏などの協力を得て、岐阜県産シダ植物目録を作成することになった。この作業は、博物館に収蔵されているシダ標本を整理し、広く一般に情報を公開する意図から出発した。その過程で、資料紹介展「岐阜県のシダ植物」となって実を結んだ。したがって、今回の資料紹介展は、腊葉標本が中心であり、寄贈標本を中心に構成した。

<展示内容>

I シダ植物とは

1. シダ植物とは
2. シダ植物の分類
3. 化石は語る

このコーナーでは、シダ植物とコケ、種子植物との違いや、シダ植物の分類について、わかりやすく解説するよう心掛けた。分類については、無料配布の解説書(手づくり)でも検索表を付記した。

II ところ変わればシダ変わる。

1. 高い山のシダ植物
2. ブナ・ミズナラ林のシダ植物

3. 照葉樹林のシダ植物
4. 家のまわりのシダ植物
5. 湿地のシダ植物
6. 石灰岩を好むシダ植物

このコーナーは、高山帯から低山帯へ生育環境別にシダ標本を配置した。特に平面的になりがちな展が構成を、大形実物標本をパネル化することにより立体化させた。同時に、写真・分布図などを加えることにより、単調になりがちな展をさけた。

III 人とシダ植物

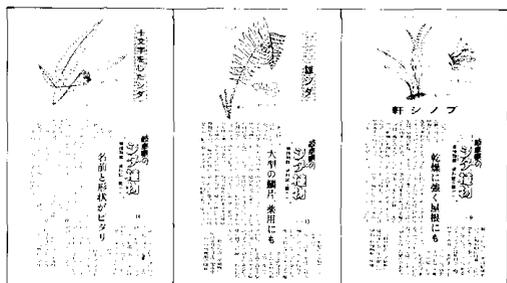
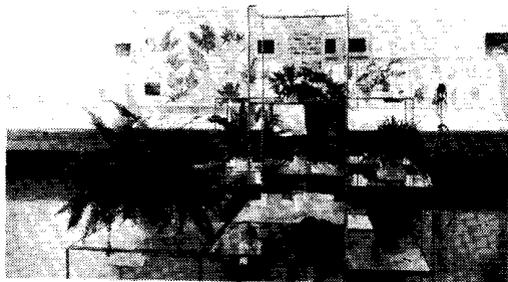
1. 食べられるシダ・薬になるシダ
2. ワラビ粉と加納の傘
3. 観葉植物としてのシダ

食べられるシダ、薬になるシダは、一番興味が持たれるコーナーである。ここでは、一般的なシダ植物の紹介でとどめた。下手な利用は、害の方が大きくなると考えられる。ワラビ粉の資料は、昭和35年の資料を借用することができた。このコーナーは興味を持つ人も多く、好評であった。

中央展示は、自然保護の意味から野生種の展をさけ、園芸種のシダ植物の展示とした。また、観葉植物の中にシダがあることを知ること、身のまわりのシダを見直す機会になればという意図もあった。

県民への広報活動として、新聞で「岐阜県のシダ植物」を24回連続で掲載した。ここでは展示では解説できなかったシダ植物の話を、わかりやすく解説し、イラストを多く使用した。

「岐阜県のシダ植物」が、県博物館収蔵標本をまとめる結果となり、今後の資料収集への足場となったことは、本来の博物館資料紹介展として位置づいたと考えたい。



6. 調査研究・資料収集活動

(1) 人文部門

| | 館 蔵 | | | | 借 用 | 寄 託 | 計 |
|-------|-------|-----|-------|---------|-------|-------|-------|
| | 実 物 | 複 製 | そ の 他 | (寄 贈) | | | |
| 考 古 | 1,987 | 166 | 52 | (1,791) | 599 | 175 | 2,979 |
| 歴 史 | 868 | 30 | 122 | (855) | 303 | 15 | 1,338 |
| 民 俗 | 1,661 | 1 | 9 | (1,661) | 0 | 19 | 1,690 |
| 美術・工芸 | 216 | 16 | 37 | (161) | 259 | 953 | 1,481 |
| そ の 他 | 0 | 0 | 0 | (0) | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 4,732 | 213 | 220 | (4,468) | 1,161 | 1,163 | 7,489 |

複製には模型・ジオラマを含む (昭和62年3月31日現在)

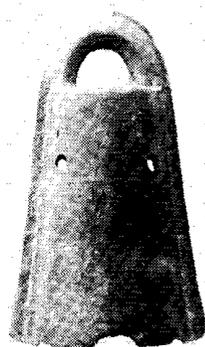
1. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

| | | |
|----------------------|-----|--------|
| 龍吐水 | 2 | 松尾 憲生 |
| 日本政府発行紙幣 (フィリッピン) | 11 | 宮崎 惇 |
| 民具 | 6 | 神足 稔一 |
| 卒業証書・通知表 | 2 | 加藤 くわ子 |
| 計量器 他 | 46 | 県計量検定所 |
| 基準天秤 他 | 7 | 小森 孫衛 |
| 十六銅鐸 | 1 | 岡崎 友子 |
| 糶摺 他 | 49 | 神足 稔一 |
| 大蓑 他 | 4 | 古田 正則 |
| カセットテープ | 1 | 小島 茂 |
| 絵葉書 他 | 161 | 小島 登美男 |
| 基準器 他 | 17 | 県計量検定所 |
| 花笠 他 | 5 | 山田 桂二 |
| 花笠 他 | 15 | 今井 芳樹 |
| 起し太鼓用コモ他 | 4 | 天木 真 |
| 花笠 他 | 53 | 若宮 多門 |
| 神箸 他 | 16 | 宮脇 勝次郎 |
| 外套 他 | 2 | |
| マント | 1 | 廣田 照夫 |
| 民具 | 69 | 広瀬 静雄 |
| 尾張鐺製作工程 | 1式 | 成木 一彦 |
| 棒秤 | 1式 | 熊田 光久 |
| 刀剣白鞘製作工程 | 1式 | 佐藤 不二 |
| 〃 工具 | 15 | 〃 |
| 民具 | 208 | 宮川 澄雄 |
| 教育資料 | 7 | 宮崎 惇 |

2. 新館蔵資料紹介

・ 十六銅鐸

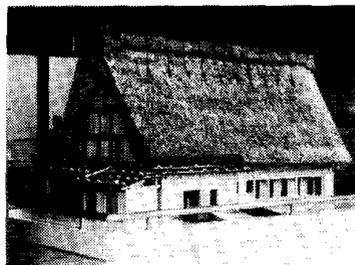
十六銅鐸は、明治34年不破郡荒崎村十六 (現大垣市十六町) で、堤防工事の際出土したと伝えられる。当時の地主であった岡崎家により保管されていたが、今回故岡崎良吉氏の夫人(友子氏) から寄贈された。高さ25.7cmの小型銅鐸



であるが、県内出土5口のうち最古のものであり、また奈良国立文化財研究所の佐原真氏により動物文様が指摘されるなど、極めて貴重なものである。

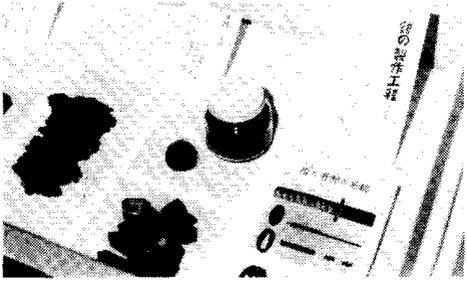
・ 旧遠山家住宅模型

旧遠山家は、文政10年(1827年)に創建され、下呂に移築された大戸家などとともに、代表的な合掌づくりで、国指定重要文化財である。この模型は $\frac{1}{10}$ のほぼ忠実な縮尺である。



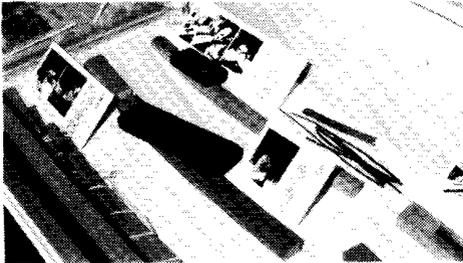
つば
・ 鐺の製作工程資料

中津川市在住の鐺師成木一彦氏より寄贈を受けた。工程資料は①鋳づくり(砂鉄・松炭・鋳)②地鉄づくり(鍛錬の三過程)、③毛書き、④完成作品から成っている。



・ 白鞘の製作工程及び工具

関市在住の鞘師佐藤不二氏より寄贈を受けた。資料は、①木取り、②中通し、③荒削り、④搔入れ、⑤糊付け、⑥仕上げの6工程からなっている。またこれに必要なかんな、のみ、小刀など工具15点も同時に寄贈をうけた。



・ 民俗芸能関係資料

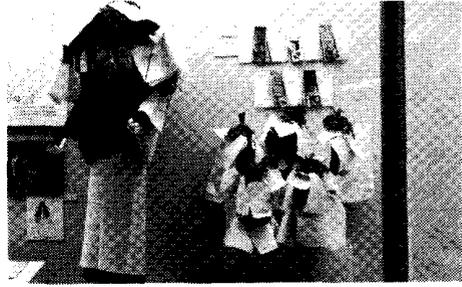
開館10周年記念展「ふるさとの祭り」に出品していただいた資料のうち、富加町伊和神社の田の神祭関係資料5点、下呂町の田の神祭関係資料15点、古川町起し太鼓資料3点、白鳥町長滝六日祭(延年)関係資料53点、根尾村樽見の十一日祭関係資料16点の寄贈を受けた。そのうち3点を紹介する。

(ア) 下呂町の田の神祭の花笠

この花笠は、下呂町森の八幡神社で2月14日に行われる田の神祭で使用される。

2月13・14日に、四つの笠組の笠宿で花笠作りが行われる。花笠は本笠ともいい、踊子がかぶる笠であり、稲穂や稲束・蚕・桑の葉などを表わすものを付ける。祭りの終了後、花笠を細

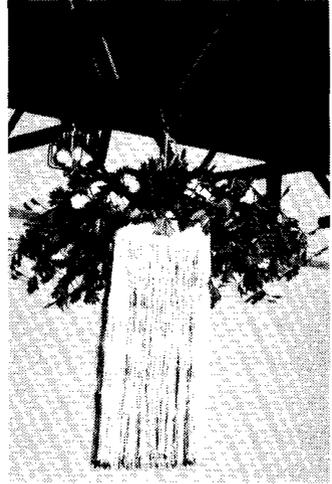
かく分けて各戸に配る。



(イ) 長滝六日祭の花笠(牡丹)

この花笠は、白鳥町長滝の白山長滝神社で1月6日に行われる六日祭、別名花奪い祭で使用される。

1月2・3日に、長滝地区の人々によって、5蓋の花笠が作られる。その種類は、桜・菊・牡丹・椿・芥子である。

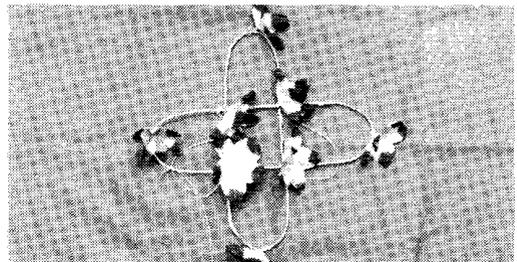


6日早朝、花笠は拜殿の天井に吊り下げられる。午後、拜殿の舞台では延年の舞が行われる。その最中に、人々は人梯を作り、花笠を奪い取り、花笠の一部を大事に家に持ち帰る。

(ウ) 伊和神社の田の神祭の花笠

この花笠は、富加町加治田の伊和神社で4月5日(3年目ごと)に行われる田の神祭で使用される。

この花笠をかぶった踊り手が、「田植えうた」を歌い踊り、最後に花笠を見物人に投げる。



(2) 自然部門

| | 館 蔵 | | | | 借 用 | 寄 託 | 計 |
|-------|--------|-----|--------------|-------------|-----|-----|--------|
| | 実 物 | 複 製 | 移管・自作 その他 | 寄 贈 (内数) | | | |
| 動 物 | 2,1773 | 15 | 164 | (10,512) | 15 | 0 | 21,967 |
| 植 物 | 6,330 | 35 | 183 | (4,775) | 0 | 0 | 6,548 |
| 岩石・鉱物 | 1,938 | 5 | 73 | (507) | 20 | 3 | 2,039 |
| 化 石 | 1,724 | 31 | 20 | (1,029) | 47 | 19 | 1,841 |
| そ の 他 | 57 | 22 | 168 | (15) | 0 | 0 | 274 |
| 計 | 31,822 | 108 | 608 | (16,838) | 82 | 22 | 32,642 |

複製には模型・ジオラマを含む (昭和62年3月31日現在)

1. 資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

昭和62年3月31日現在

| 資 料 名 | 点数 | 芳 名 | 資 料 名 | 点数 | 芳 名 |
|----------------|-------|----------|-------------|-------|----------------|
| イタチ | 1 | 成瀬 亮司 | スズメ | 1 | 山田 良司 |
| ヌートリア | 1 | 渡辺 泉 | カシラダカ | 1 | 大沢 光男 |
| ヤマドリ | 1 | 岸 二郎 | オオサンショウウオ | 1 | 岐阜公園事務所 |
| イワナ (胆のう) | 1 | 小林 繁 | ブルーギル他 | 2 | 安藤 朝夫 |
| ムラサキシロシタバ類 | 約 100 | 西田 真也 | ホンドキツネ | 1 | 芝 五三 |
| コモグラ | 1 | 本田 享司 | ホンドタヌキ | 1 | 故金 正司 |
| ヤマトシジミガイ他 | 5 | 永井 豪 | スズメ他 | 3 | 亀山 幸子 |
| ヒメタニシ他 | 3 | 尾方 香織 | カメムシ類・半翅目 | 約 330 | 飯田 逸博 |
| カヤネズミ (仔) 他 | 4 | 可児 卓也 | オコジョ (頭骨) 他 | 3 | 嶽本 清一郎 |
| | | 松浦 良紀 | ニホンカワネズミ | 1 | 老田 正夫 |
| キノコバエ・鉱物標本 | 57 | 宮崎 惇 | チョウセンイタチ | 2 | 北九州市自然 史博物館 |
| ハウネンエビ | 5 | 田中 季幸 | | | |
| カイエビ | 6 | 宮崎 治郎 | ヌートリア | 1 | 大野町役場 |
| カブトエビ (成虫・殻・卵) | 83 | 大矢 祐司 | トンボ類 | 19 | 柴田 佳章 |
| オオルリ | 1 | 各務原公園事務所 | ヒガイ他 | 6 | 後藤 宮子 |
| シマリス | 1 | 後藤 常明 | ホオジロ | 1 | 中島 節美 |
| ツツドリ | 1 | 伊佐治 久道 | ヒヨドリ | 1 | 大塚 之稔 |
| ホンドタヌキ | 1 | 井上 雄志 | ホンドタヌキ他 | 3 | 大原 一紘 |
| アマゴ他 | 5 | 伏屋 昌治 | シロヒレタビラ他 | 120 | 琵琶湖文化館 |
| ドブシジミ | 21 | 宮崎 憲二 | 飛騨地区植物標本 | 1850 | 長瀬 秀雄 |
| ホオジロ・礫岩他 | 3 | 亀山 力造 | 飛騨地区植物標本 | 300 | 二村 延夫 |
| カケス | 1 | 安江 薫三 | 岐阜県産シダ植物標本 | 50 | 村瀬 正成 |
| ホンドイタチ | 1 | 田中 芳江 | 北米産植物標本 | 500 | ハーバード大学 |
| タガメ | 1 | 桜井 登也 | 海百合他 | 150 | 加藤 佳司 |
| ゴイサギ | 1 | 林 節子 | ボーリングコア | 30 | 古川 善次郎 |
| ムカシトンボ | 1 | 吉田 輝 | 腕足類 | 1 | 笠原 芳雄 |
| ヨタカ | 1 | 高橋 光利 | 石灰岩 | 1 | 清水 克己 |

| 資 料 名 | 点数 | 芳 名 |
|----------|----|-------|
| 煙水晶他 | 30 | 檜原 兼江 |
| 三原山のスコリア | 5 | 丹下 博司 |
| 三原山の溶岩 | 1 | 中島 公一 |
| 自然イオウ | 1 | 高沢 信一 |
| 辰砂 | 10 | 若森 孝基 |
| 尖晶石他 | 2 | 伊藤 洋輔 |
| サンゴ石灰岩 | 2 | 赤座 富久 |



2. 化石資料の収集

61年度は吉城郡上宝村福地地域に分布する古生代デボン紀～二畳紀の動物化石を中心に収集した。

この地域は、飛騨外縁帯に位置し、日本最古の化石である貝形虫や放射虫の化石をはじめ、多くの動物化石を産出する。

東京大学教養学部の浜田隆士教授を収集指導者としてむかえ、さらに本邦一流の化石採集家の協力を得て、昭和61年10月9日から3日間、採集を行った。

水尾ヶ谷、金白道、空山などの地点において、海縁・床板サンゴ・腕足類・三葉虫などの動物化石およそ100点を収集した。

3. 常設展示の入れ替え

①常設展Ⅰふるさとの昆虫

蟻類展示を笠ヶ岳連峰の甲虫に内容変更した。このコーナーは、年1～2回の入れ替えを予定。

②常設展Ⅱふるさとの魚

展示剝製標本の追加、入れ替えのための剝製標本50個体受入、一部変更する予定。

4. 常設展示充実準備等にかかわる調査収集地学分野

- ① 笠ヶ岳連峰（吉城郡上宝村）の地形・地質調査および岩石採集、地形写真撮影。
- ② 大窪沼（大野郡白川村馬狩）周辺の地形・地質および水質調査と岩石採集、地形等写真撮影。
- ③ 大黒谷（大野郡荘川村）の中生代白亜紀手取層群の植物化石調査および地形写真撮影。
- ④ 揖斐郡徳山村の地質調査および磯谷地区で化石採集。

植物分野

- ① 笠ヶ岳連峰（吉城郡上宝村）の植物分布調査。特にシダ植物採集。生態写真撮影。
- ② 大窪沼（大野郡白川村馬狩）およびその周辺の植生調査と標本採集。生態写真撮影。
- ③ 白山・大白川登山道（大野郡白川村）沿いの植生調査ならびに生態写真撮影。
- ④ 揖斐郡徳山村扇谷沿いの植物調査収集。
- ⑥ 木曾三川下流域の河川敷を中心とした帰化植物の分布調査と標本採集、生態写真撮影。

動物分野

- ① 笠ヶ岳連峰（吉城郡上宝村）の動物調査および生態写真撮影。特に小型哺乳類・昆虫類の調査と収集。
- ② 大窪沼（大野郡白川村馬狩）とその周辺の哺乳類・鳥類・魚類および昆虫類の調査収集と生態写真撮影。
- ③ 白山・大白川附近の小形哺乳類・昆虫類の調査と生態写真撮影。
- ④ 揖斐郡徳山村の昆虫類の調査収集および写真撮影。
- ⑥ 県下各地における帰化動物の分布等の調査。
- ⑥ 県内産淡水魚類の調査収集。

7. 教育普及活動

(1) 概 略

今年度もより多くの県民との結びつきを図り、一人ひとりの主体的学習を援助し生涯学習の場を提供しようと、多彩な催しものを企画し実施した。講演会を含めた42の教室等の参加人数の総計は1,395名で、前年度の1,190名を上回

り、所期の目的は一応達せられたといえる。

テーマをもった連続講座、館内展示を教材にした講座、一般参加の写真展、体験型の親子教室やふるさと探訪などは人気があった。

図書資料室は、各方面からの図書や資料の寄贈、購入等で年々充実してきたが、更に郷土資料や専門図書を増やし、利用者の用に供したい。

<昭和61年度 各種講演会及び教室等の実施状況>

| 事業名 | 月日 | テーマ・内容 | 講 師 | 対 象 | 参加人数 |
|---------|---------------------------------------|--------------------|---------------------|----------------|------|
| 特別展講演会 | 5・3 | わたしの徳山 | 写真集「故郷」の著者 増山たづ子氏 | 一 般 | 138 |
| | 8・10 | 奥飛騨の山々を語る | 山岳写真家・山小屋経営者 小池 潜氏 | " " | 142 |
| | 10・26 | 岐阜県の祭り（その分布と広がり） | 岐阜大学助教授 伊東久之氏 | " " | 31 |
| 博物館教室 | 5・5 | ふるさとの人シリーズ①小池 勇 | 当館学芸主事・ 名和正浩 | 一 般 | 6 |
| | 6・22 | " ②津田左右吉 | 当館人文係長 大前匡昭 | " " | 6 |
| | 11・2 | " ③牧野 英一 | " " | " " | 5 |
| | 5・25 | 徳山村の民具 | 日本民具学会会員 脇田雅彦氏 | " " | 47 |
| | 6・8 | 弥生時代の暮らし | 当館学芸主事 尾関 章 | 小学校高学年以上・一般 | 30 |
| | 9・21 | 治水と輪中 | 当館学芸主事 名和正浩 | 一 般 | 13 |
| | 11・9 | 祭りの見方 | 民俗芸能学会会員 片桐芳一氏 | " " | 20 |
| | 11・16 | 美濃市の祭り | 美濃市文化財を守る会理事長 内木 茂氏 | " " | 25 |
| | 6・1 | やさしい植物学入門講座 ①植物の世界 | 当館学芸主事 安藤志郎 | 一 般・固 定 | 37 |
| | 7・20 | " ②植物の分類 | " " | " " | 22 |
| | 8・31 | " ③岐阜県の植物社会 | " " | " " | 35 |
| | 10・10 | " ④植物観察のおもしろさ | " " | " " | 20 |
| | 8・2 | 笠ヶ岳の自然シリーズ (1)おいたち | 当館学芸主事 国光正宏 | 小学校高学年以上・一般 | 17 |
| | 8・9 | " (2)植生 | 当館学芸主事 安藤志郎 | " " | 20 |
| | 8・16 | " (3)動物 | 当館学芸主事 安藤・小森 | " " | 17 |
| | 7・24 | 小中学生をもつ親の科学教室 | 当館学芸主事 小森広光 | 親 | 18 |
| | 8・3 | 高山にすむチョウ（奥飛騨の昆虫） | 昆虫分布研究会 西田貞也氏 | 小学校高学年以上・一般 | 24 |
| 9・14 | 古生代の化石（フズリナ化石の観察） | 当館学芸主事 国光正宏 | " " | 21 | |
| 9・23 | ふるさとの大池をつくる岩石 | " " | " " | 26 | |
| 9・28 | 昆虫観察のおもしろさ | 当館学芸主事 鈴木 功 | " " | 4 | |
| 自然観察会 | 4・20 | 百年公園の早春の花 | 当館学芸主事 安藤志郎 | 小学校高学年以上・一般 | 31 |
| | 4・27 | 春の昆虫（ギフチョウの生態） | 当館学芸主事 小森・安藤・鈴木 | " " | 27 |
| | 4・29 | 津保川の石ころしらべ | 当館学芸主事 国光正宏 | " " | 25 |
| | 5・18 | 百年公園の新緑とつつじ | 当館学芸主事 安藤志郎 | " " | 40 |
| | 6・15 | 津保川の水生昆虫 | 当館学芸主事 小森・鈴木 | " " | 37 |
| | 6・29 | 百年公園のトンボ | 当館学芸主事 小森・鈴木 | " " | 22 |
| | 7・26 | 北アルプス笠ヶ岳山麓の自然 | 当館学芸主事 安藤・小森・鈴木 | 親 と 子 | 60 |
| | 7・27 | 北アルプス笠ヶ岳山麓の自然 | 当館学芸主事 安藤志郎 | 小学校高学年以上・一般 | 16 |
| | 9・15 | 津保川の水辺植物 | 当館学芸主事 安藤志郎 | " " | 10 |
| | 11・2 | 秋に鳴く虫 | 当館学芸主事 小森広光 | " " | 10 |
| | 11・30 | 百年公園の樹木 | 当館学芸主事 安藤志郎 | " " | 15 |
| 親子教室 | 7・6 | 切り絵あそび | 当館教育主事 今井雅巳 | 親 と 子 | 37 |
| | 7・13 | 拓本をとろう | 当館学芸主事 尾関 章 | " " | 22 |
| | 8・17 | 火おこし器をつくろう | " " | " " | 52 |
| | 8・24 | 竹細工 | 竹細工師 石原文雄氏 | " " | 64 |
| | 12・7 | 版画あそび | 当館学芸主事 平田公二 | " " | 35 |
| | 12・14 | しめなわづくり | わら細工師 大野仁久氏 | " " | 50 |
| | 12・21 | 凧づくり | 竹細工師 石原文雄氏 | " " | 44 |
| ふるさと探訪 | 10・5 | 苗木地方の自然を訪ねて（植物・鉱物） | 当館学芸主事 国光正宏 | 親 と 子 | 45 |
| | 11・23 | ヒンココ祭りを訪ねて | 美濃市文化財を守る会理事長 内木 茂氏 | " " | 39 |
| 民俗芸能実演 | 5・11 | 関塚六太鼓 | 10・19 郷土の太鼓と芸能まつり | | |
| | 10・12 | 金蔵獅子（国府町） | 11・3 真桑文楽（真正町） | 11・24 杵振踊（蛭川村） | |
| ふるさと写真展 | 公募作品展 4/23～6/8 徳山の四季と暮らし（出品者14名 161点） | | | | |
| | 10/8～11/24 ふるさと祭り（出品者17名 99点） | | | | |

日曜映写会（16mm・スライド・VTR）

| 期 間 | 題 名 | 観 覧 者 数 |
|--------------|-------------------------|---------|
| 4月23日～6月8日 | '85徳山、ようこそ博物館へ、縄文遺跡を訪ねて | 2,777名 |
| 7月23日～9月15日 | 笠ヶ岳連峰の高山植物、笠ヶ岳連峰の植物社会 | 822名 |
| 10月8日～11月24日 | 西濃の民俗芸能、おこし太鼓、杵振踊、長龍の延年 | 1,843名 |

博物館実習生指導（8月4日～10日・7日間）

岐阜女子大、愛知学院大、静岡大、手塚山大よりの9名の学生を指導した。

(2) 移動展

「ふるさとの植物と動物たち」というテーマで、古川町・下呂町で実施した。

○古川町立図書館10月26日(日)～11月3日(祝)

・入場者数 2,180名

○下呂町峰一合遺跡考古館 11月5日(水)・～

・入場者数 1,783名 11月16日(日)

両会場とも考古資料の展示室を併設していたので、考古触察資料30点を加え、総合博物館の移動展としての体裁を整えることができた。

(3) 資料貸出し

他館の展示会、学校での教材等に下記の資料を貸出した。

<自然>

○福井県立博物館 (4.23～6.8)

- ・ナウマン象骨格 1点
- ・デスモスチルス骨格 1点

○神戸町中央公民館

- ・ふるさとの魚展 一式 (7.14～9.2)
- ・ふるさとの岩石展 一式 (12.16～62.2.3)

○川島町ふるさと史料館

- ・ふるさとの魚展 一式 (4.20～6.10)

○羽島市歴史民俗資料館

- ・ふるさと魚展 一式 (62.3.10～5.10)

○伊自良村歴史民俗資料館

- ・ふるさとの植物と動物 一式 (62.3.23～5.18)

○加茂農林高校

- ・ふるさとの魚展 一式 (10.23～11.23)

(4) 昭和61年度 刊行物一覧

<人文>

○山梨県立考古博物館 (10.2～12.11)

- ・三角縁二神二獣鏡 1点
- ・ク 二神三獣鏡 1点
- ・画文帯神獣鏡 1点

○瑞浪陶磁資料館 (7.23～10.1)

- ・円満寺古墳銅鏡 3点
- ・陽徳寺古墳角杯等 6点

○福井県立若狭歴史民俗資料館 (4.28～6.20)

- ・陽徳寺古墳角杯 1点

○関市文化会館 (第39回県盲人福祉大会 6.1)

- ・触察レブカリ 10点
- ・石斧 火おこし器 2点

○鹿児島県歴史資料センター黎明館 (7.26～8.17)

- ・仏像 2点
- ・画像 1
- ・仏鉢 1ク
- ・空穂 1
- ・16mm岐阜の一世紀
- ・木影 1
- ・具足 1式
- ・織部 2
- ・籠 1点
- ・文案 3

○サントリー美術館 (1～6.10)

- ・陣羽織 1点

○岐阜市歴史博物館 (10.15～11.30)

- ・千手観音之像 1点

○可児郷土歴史館 (9.10～10.3)

- ・円空仏 3点

○大垣市郷土館 (10.3～11.3)

- ・小原鉄心屏風 1点

○羽島高校 (12.1～12.3)

- ・縄文土器 1点

○岐阜県歴史資料館 (10.3～10.18)

- ・銅 鐸 (複)
- ・姉小路基綱像 (複)
- ・牧野英一博士遺稿

○各務原市

- ・フィルム (長滝の延年、下呂の田の神祭)

| 名 | 称 | 発行年月日 | 版・頁 | 部 数 | 備 考 |
|----------------------|------|------------|---------|--------|---------|
| 岐阜県博物館だより | 第29号 | 61. 4. 1 | B 5 4頁 | 2,500 | |
| 〃 | 第30号 | 61. 7. 1 | 〃 〃 | 〃 | |
| 〃 | 第31号 | 61. 10. 1 | 〃 〃 | 〃 | |
| 岐阜県博物館 第9号 | | 61. 7. 1 | B 5 29頁 | 1,500 | |
| 岐阜県博物館調査研究報告 第8号 | | 62. 3. 31 | B 5 74頁 | 1,000 | |
| 昭和61年度岐阜県博物館催しもの案内 | | 61. 4. 1 | B 4 表裏 | 30,000 | |
| 特別展 図録・小冊子・リーフレット | | | | | (友の会増刷) |
| 徳山の四季とくらし (小冊子) | | 61. 4. 23 | B 6 33頁 | 200 | 1,000 |
| 〃 (絵ハガキ) | | 〃 〃 | 往復ハガキ | 21,000 | |
| 奥飛騨の自然 (リーフレット) | | 61. 7. 23 | B 2 表裏 | 12,000 | 500 |
| ふるさとの祭り (図録) | | 61. 10. 8 | B 5 72頁 | 400 | 700 |
| 〃 (リーフレット) | | 〃 〃 | B 5 4頁 | 25,000 | |
| 特別展 ポスター | | | | | |
| 徳山の四季とくらし | | 61. 4. 23 | B 2 | 2,000 | |
| 奥飛騨の自然 | | 61. 7. 23 | B 2 | 2,000 | |
| ふるさとの祭 | | 61. 10. 8 | B 2 | 2,000 | |
| 資料紹介展 図録・リーフレット・ポスター | | | | | |
| 山の道具・岐阜県のシダ (ポスター) | | 61. 12. 16 | B 3 | 1,000 | |
| 山の道具一焼畑 (小冊子) | | 〃 〃 | B 5 16頁 | 1,000 | |
| 岐阜県のシダ植物 (小冊子) | | 62. 2. 29 | B 5 22頁 | 1,000 | |
| 岐阜県のシダ植物目録 | | 〃 〃 | B 5 60頁 | 200 | |
| 展示案内 | | 61. 10. 1 | B 6 36頁 | 2,000 | |
| 概要書 | | 61. 10. 1 | B 5 24頁 | 2,000 | |
| 開館10周年記念式典 | | 61. 10. 8 | B 5 4頁 | 200 | |

(7) 友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会も4年目を迎えた。61年度の活動を総括すると、「発展へのスタートの年」と位置づけられよう。

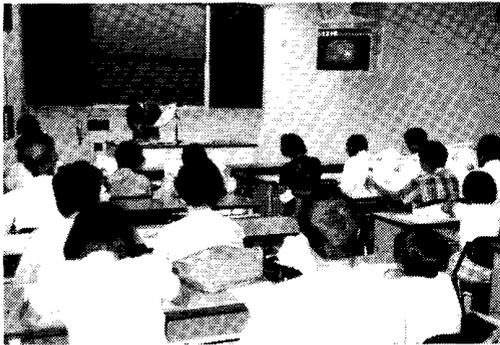
第一にあげられるのは「魅力ある友の会づくり」を目標とした主催事業のうち、歴史探訪の旅と他館見学は、初めて県外へ出かけ、なかでも秋の「飛鳥・山の辺の道」探訪は1泊2日の日程を組んだことである。また年間学習シリーズの「ふるさと伝承講座」を企画実施した。これらの活動を通して「仲間とともに学ぶ楽しさ」を体験され、相互の親睦も深まったと思う。会員数は61年度末で288名に達した。

第二点は、会則を改正して、後援会員制度を新設したこと。会の諸事業を後押しすることによって、県民の文化向上に資していただくという趣旨で、この制度が拡大・定着すれば会の活動の基盤は、さらに充実すると期待される。

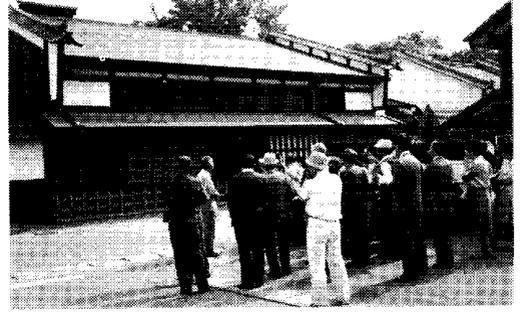
第三には、年4回発行の友の会報を、常時6頁建てとした。会報を通じて、会員相互の親睦が深まり、会への関心が高まったと思う。

反省点としては、「博物館事業の普及を図る」という会の目的のひとつについて、具体的な活動がやや乏しく、なお検討の余地を残していることである。62年度の課題としたい。

会務の運営については、会員による自主的な運営という面で、工夫を重ねる必要があり、資料等の作成頒布によって生まれる財政的基盤の整備推進とあわせて、積極的に取り組むべき間



ふるさと伝承講座



歴史探訪「大正村・太田宿脇本陣」
題といえよう。

◎昭和61年度友の会事業

〈会議〉

総会4.27 臨時総会11.9 役員会11.9、3.28

〈探訪の旅、他館見学、講座〉

- ・歴史探訪（大正村ほか）5.24 48名参加
- ・歴史探訪（飛鳥ほか）9.7～8 52名参加
- ・県美術館見学（英国展）8.9 15名参加
- ・京都国立博物館見学 11.13 44名参加
- ・ふるさと伝承講座 「民話」「人の一生」「祭り」の3回 42名参加

〈友の会報発行〉

- ・第7号 4.1 500部 A5 6頁
- ・第8号 7.1 500部 A5 6頁
- ・第9号 10.1 500部 A5 6頁
- ・第10号 1.1 500部 A5 6頁

〈資料等作成頒布〉

- ・特別展図録 「徳山の四季とくらし」1000部
ふるさとの祭り 700部
- ・特別展リーフレット
「奥飛騨の自然」 500部
- ・絵はがき 「岐阜県博物館」2種類追加刷
- ・改訂版 展示案内 等

〈その他〉

- ・親子教室等共催事業 9回 118名参加
- ・会員助成（入館料補助）
- ・後援会員制度の新設

◎昭和61年度友の会役員

会長 熊田光久

副会長 長屋一男、国光溢夫、廣田照夫

◎昭和61年度予算

一般会計 692,000円 特別会計1,036,173円

8. 図書資料寄贈者芳名一覧

(昭和61年4月1日～

昭和62年3月31日)

(博物館関係)

- 国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
国立科学博物館
国立国際美術館
国立科学博物館附属自然教育園
東京国立博物館
京都国立博物館
憲政記念館
岐阜県美術館
岐阜県歴史資料館
岐阜市歴史博物館
内藤記念くすり博物館
岐阜市少年科学センター
大垣市歴史民俗資料館
岐阜町歴史民俗資料館
川島町ふるさと史料館
岐阜県陶磁器陳列館
上岐市美濃陶磁歴史館
瑞浪陶磁資料館
瑞浪市化石博物館
可児郷土歴史館
高山市郷土館
高山陣屋管理事務所
北海道開拓記念館
北見市立北見郷土博物館
北網圏北見文化センター
釧路市立郷土博物館
苫小牧市博物館
市立函館博物館
斜里町立知床博物館
穂別町立博物館
ひがし大雪博物館
根室市博物館開設準備室
アイヌ民俗博物館
青森県立郷土館
八戸市博物館
岩手県立博物館
岩手県立農業博物館
大船戸市立博物館
東北歴史資料館
仙台市歴史民俗資料館
仙台市博物館
仙台市科学館
山形県立博物館
秋田県立博物館
福島県立博物館
福島県文化センター
福島市児童文化センター
会津民俗館
致道博物館
栃木県立博物館
小山市立博物館
- 茨城県歴史館
日立市立郷土博物館
群馬県立歴史博物館
群馬県立近代美術館
埼玉県立歴史資料館
埼玉県立民俗文化センター
埼玉県立博物館
埼玉県立自然史博物館
埼玉県立近代美術館
浦和市立郷土博物館
千葉県立安房博物館
千葉県立大利根博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立上総博物館
市立市川考古博物館
船橋市郷土資料館
館山市立博物館
君津市立久留里城址資料館
成田山靈光館
東京都高尾自然科学博物館
豊島区立郷土資料館
大田区立郷土博物館
品川区立品川歴史館
足立区立郷土博物館
深川江戸資料館
渋谷区立松濤美術館
世田谷美術館
町田市立博物館
八王子市立郷土資料館
福生市郷土資料室
たばこと塩の博物館
家具の博物館
紙の博物館
サントリー美術館
刀剣博物館
西武美術館
郵政省通信博物館
早稲田大学演劇博物館
国際基督教大学博物館
湯浅八郎記念館
東京農工大学工学部附属繊維博物館
国学院大学文学部考古学資料館
東京農業大学農業資料室
神奈川県立博物館
神奈川県立近代美術館
神奈川県立自然保護センター
神奈川県立金沢文庫
川崎市青少年科学館
茅ヶ崎市文化資料館
横須賀市博物館
平塚市博物館
箱根町立大涌谷自然科学館
横浜市美術館開設準備室
鎌倉国宝館
根岸競馬記念公苑馬の博物館
- 横浜海洋科学博物館
船の科学館
箱根美術館
東海大学海洋科学博物館
新潟県立美術博物館
新潟県立自然科学館
相川郷土博物館
長岡市立科学博物館
石川県立郷土資料館
石川県立白山自然保護センター
石川県立美術館
石川県立歴史博物館
小松市立博物館
福井県立博物館
福井市立郷土歴史博物館
福井市立郷土自然科学博物館
富山市科学文化センター
富山市考古資料館
山梨県立考古博物館
山梨県立美術館
愛知県陶磁資料館
愛知県文化会館
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋市見晴台考古資料館
尾西市歴史民俗資料館
半田市立博物館
豊橋市美術博物館
豊橋市地下資源館
豊田市郷土資料館
三好町立歴史民俗資料館
南山大学人類学博物館
熱田神宮宝物館
伊良湖自然科学博物館
博物館明治村
岩田洗心館
リトルワールド
長野市立博物館
大町山岳博物館
信濃町立野尻湖博物館
日本民俗資料館
松本市立博物館
静岡県立美術館
沼津市明治史料館
沼津市歴史民俗資料館
浜松市博物館
富士市立博物館
ベルナルド・ビュフェ美術館
尾鷲市立中央公民館郷土室
藤原岳自然科学館
伊勢文化会談所
真珠博物館
海の博物館
滋賀県立近江風土記の丘資料館
滋賀県立琵琶湖文化館
市立長浜城歴史博物館

彦根城博物館
京都府立総合資料館
京都府立丹後郷土資料館
宇治市歴史資料館
京都嵐山美術館
霊山歴史館
平安博物館
大阪市立博物館
大阪市立自然史博物館
東大阪市立郷土博物館
大阪市立東洋陶磁美術館
堺市博物館
兵庫県立歴史博物館
神戸市立博物館
伊丹市立博物館
奈良県立民俗博物館
奈良県立美術館
和歌山県立博物館
和歌山県立自然博物館
和歌山市立博物館
岡山県立博物館
岡山市立オリエント美術館
市立津山郷土館
津山洋学資料館
笠岡市立竹斎美術館
倉敷市立自然史博物館
広島県立歴史民俗資料館
広島市安佐動物公園
広島市郷土資料館
日本はきもの博物館
山口県立博物館
秋芳町立秋吉台科学博物館
鳥取県立博物館
徳島県立博物館
香川県立自然科学館
瀬戸内海歴史民俗資料館
愛媛県立博物館
松山市立子規記念博物館
福岡市立歴史資料館
北九州市立自然史博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立歴史博物館
北九州市立児童文化科学館
佐賀県立博物館
長崎県立美術館
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宮崎県総合博物館
鹿児島県立博物館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
鹿児島市美術館

〔博物館協会〕

日本博物館協会
全日本博物館学会
全国科学博物館協議会

埼玉県博物館連絡協議会
静岡県博物館協会
石川県博物館協議会
愛媛県博物館協会
宮島町博物館協会
広島市動物園協会

〔教育委員会関係〕

岐阜県教育委員会
岐阜県教育センター
岐阜県工業技術センター
岐阜県同和教育協議会
岐阜県企画部統計課
岐阜県文化課
岐阜県PTA連合会
岐阜県関ヶ原青少年自然の家
岐阜市教育委員会
大垣市教育委員会
各務原市教育委員会
関市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
美濃市教育委員会
可児市教育委員会
高山市教育委員会
土岐市教育研究所
久瀬村教育委員会
糸貫町教育委員会
大和町教育委員会
岩村町教育委員会
古川町教育委員会
福岡町教育委員会
萩原町教育委員会
下呂町教育委員会
加子母村教育委員会
関市役所
土岐市総務部企画財政課
海津町役場
養老町役場
古川町役場
七宗町役場
川島町役場
白川町役場
平田町役場
蛭川村役場
徳山村役場
岐阜市文化センター
大垣文化文化会館
美濃加茂市文化会館
多治見市文化会館
川島町民会館
高富町社会福祉協議会
富加町史編集委員会
岐阜県立図書館
福島県教育委員会
いわき市教育委員会
いわき市教育文化事業団

岩手県文化振興事業団
神奈川県教育委員会
茅ヶ崎市教育委員会
川崎市教育委員会
相模原市教育委員会
東京都教育委員会
福生市教育委員会
世田谷区教育委員会
大島町教育委員会
千葉県教育委員会
新潟県教育委員会
非崎市教育委員会
能都町教育委員会
蒲郡市教育委員会
稲沢市教育委員会
春日井市教育委員会
東郷町教育委員会
彦根市教育委員会
藤原町教育委員会
豊中市教育委員会
西紀・丹南町教育委員会
広島市教育委員会
徳島県教育委員会
長崎県教育委員会

〔学校関係〕

笠松町立松枝小学校
岐阜市立早田小学校
八百津町立潮見小学校
八幡町立八幡中学校
本巣高等学校
羽島北高等学校
不破高等学校
岐阜第一女子高等学校
郡上北高等学校
加茂農林高等学校
中津高等学校
岐阜東高等学校
岐阜県小中学校校長会
本巣郡学校教育会
高校地理研究会
岐阜県高等学校生物教育研究会
岐阜大学教育学部
岐阜女子短期大学
岐阜女子大学
岐阜経済大学
聖徳学園女子短期大学
京都大学霊長類研究所
図書館情報大学
神奈川大学日本常民文化研究所
信州大学人文学部
明治薬科大学
学習院大学
お茶の水女子大学
代々木ゼミナール造形学校
静岡大学理学部地球科学教室

名古屋大学総合研究資料室
愛知大学文学部
市邨学園短期大学人文科学研究会
関西大学考古学等資料室
島根大学山陰地域研究総合センター
九州産業大学

〔研究機関・出版社・その他〕

東京国立文化財研究所
奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
元興寺文化財研究所
玉川文化財研究所
東京都埋蔵文化財センター
神奈川県埋蔵文化財センター
千葉県埋蔵文化財センター
静岡県埋蔵文化財調査研究所
滋賀県埋蔵文化財センター
円福寺西方遺跡調査会
日野市栄町遺跡調査会
上野原遺跡調査会
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
極楽寺宗教文化研究所
黒川古文研究所
民具製作技術保存会
ポーラ伝統文化振興財団
観光資源保護財団
美術文化史研究会
日展
行動と文化研究会
日本美術刀剣保存協会
リキテックス・ビエンナーレ事務局
日本実生研究会
地質調査所
日本イヌワン研究会
東レ科学振興会
名古屋哺乳類研究会
名古屋植物防疫所
名古屋営林局
活断層研究会
鈴漢学術団体
三重動物学会
高校地理研究会
京都服飾文化研究財団
岐阜県土木部道路維持課
岐阜県企画部土地対策課
岐阜県工業技術センター
岐阜県水産試験場
岐阜県農業試験場
岐阜県工業試験場
岐阜県工芸試験場
岐阜県青少年対策本部
岐阜県歴史資料保存会
岐阜県哺乳動物調査研究会

日本野鳥の会岐阜県支部
岐阜県デザイン振興会
岐阜県郷土資料研究会
岐阜県昆虫同好会
岐阜県農業技術教育センター
土岐少年自然の家
飛騨植物研究会
岐阜県文化財保護協会大和村支部
養老町文化財保護協会
日本野鳥の会岐阜支部ヒダブロック事務局
地域社会研究会
中山道加納宿文化保存会
欲斎研究会
金華山植物調査同好会
徳山村の自然と歴史と文化を語る集い
郡上史談会
霊山顕彰会岐阜県支部
美濃民俗文化の会
飛騨郷土学会
長良川河口せきに反対する市民の会
大正村実行委員会
日本の竹を守る会岐阜支部
書道心画院
宮内庁事変部
宮内庁正倉院事務局
日刊西美濃わか街社
北白川書房
郷土出版社
啓林館
岩波書店
東京美術
東京書籍株式会社
日本美術刀剣新聞社
海外学人日刊社

〔個人〕（敬称略）

生田歳計
池田愛也
石原伝兵衛
市原信治
雲洞山福応寺
伊藤秋男
大江 侖
大森清孝
岡崎友子
小野木三郎
金古弘之
桑原徹
神山博之
駒田格知
清信重
竹下喜久男
田中淑紀

土屋一
永井源六郎
中村保雄
野村隆光
日比野和美
孫福正
山田利行
米津為一郎